

2017年度 修士論文

アメリカの民間支援団体

Challenged athlete foundation による

障害者スポーツの普及・育成に関する研究

Challenged Athlete Foundation(CAF) in USA
to Provide Opportunities and Support to People
with Physical Challenges

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

トップスポーツマネジメントコース

5017A307-9

木村 潤平

研究指導教員： 平田 竹男 教授

目次

第1章	序論	1
第1節	CAF について	1
第2節	先行研究	1
第3節	研究の意義	1
第4節	研究の目的	2
第2章	研究方法	3
第1節	CAF 関係者に対するインタビュー調査	3
第1項	調査対象	3
第2項	調査項目	3
第3項	分析方法	3
第3章	結果	4
第1節	CAF の設立時からの活動	4
第1項	CAF の創生期	4
第2項	CAF の組織概要について	6
第2節	CAF の資金調達方法	11
第1項	イベント収入	11
第2項	スポンサー収入	13
第3項	CAF の活動収益の推移とアメリカにおける社会的事象の影響	19
第3節	CAF の活動プログラム	20
第1項	Access for athlete.....	21
第2項	San Diego Triathlon Challenge.....	26
第3項	Operation Rebound	29
第4項	Catch A Rising Star.....	30
第5項	Community Outreach.....	31
第6項	活動プログラムの成果	32
第4節	CAF の今後の展開	33
第1項	CAF の現状における問題	33
第2項	CAF の新しい取組み	33
第3項	CAF の新しいプログラム	34
第4項	CAF と他組織団体のコラボレーション	35
第5項	CAF から世界へ	35
第6項	CAF の今後の目標	36
第5節	CAF 創設者からのメッセージ	36
第1項	ボブ・バビット氏の CAF におけるこれまでの活動	37

第2項	ボブ・バビット氏の印象的な障害者アスリートストーリー.....	37
第3項	CAFの海外選手サポートストーリー.....	38
第4項	ボブ・バビット氏が考えるロンドンパラリンピックの成功	38
第5項	Emmanuel's gift.....	39
第6項	ボブ・バビット氏が考えるビデオ作成とプロモーション活動	40
第7項	ボブ・バビット氏からの筆者へのメッセージ	41
第6節	CAFの「理念」「資金」「普及」「勝利」	42
第1項	理念	42
第2項	勝利	43
第3項	資金	43
第4項	普及	43
第4章	考察	45
第1節	CAFの揺るがない基本理念	45
第2節	トリプルミッションの好循環	45
第1項	CAFの活動プログラムによる選手強化への貢献	46
第2項	CAFの資金調達成功要因	46
第3項	地域住民による支援の重要性	48
第5章	結論	49
謝辞		50
引用・参考文献		51
巻末付録		52

図表目次

図 1	Jim MacLaren 氏	5
図 2	CAF 創設者（左 Rick Kozlowski 氏、中央 Bob Babbitt 氏、Jeffrey Essakow 氏）	5
図 3	CAF の「Hope Wall」	7
図 4	CAF の 1 階イベント・交流スペース	7
図 5	CAF のジム	8
図 6	2017 年 CAF GLOBAL PARTNERS	13
図 7	CAF の 2017 年スポンサー募集要項	14
図 8	Charity Navigator における CAF の評価グラフ	16
図 9	CAF のファイナンシャルパフォーマンス	17
図 10	CAF の説明責任と事業の透明性を表す項目	18
図 11	CAF 活動収益推移と社会的事象について	19
図 12	CAF GRANT 支給者推移	21
図 13	San Diego Triathlon Challenge BIKE 模様	27
図 14	San Diego Triathlon Challenge SWIM 模様	27
図 15	Tour de cove 模様	28
図 16	Operation Rebound 支給者推移	29
図 17	夏季パラリンピック、及び国際大会における CAF 支援アスリート出場者数（自 己申告ベース）	32
図 18	冬季パラリンピック、及び国際大会における CAF 支援アスリート出場者数（自 己申告ベース）	32
図 19	CAF のトリプルミッションの枠組み	45
表 1	トラビス・リック氏に対するインタビュー項目	4
表 2	資金調達イベント一覧	11
表 3	障害者スポーツの普及・育成プログラム	21
表 4	Access for athlete 概要	21
表 5	Access for Athletes Grant Program 2017 年度 WEB 応募質問項目	23
表 6	Access for Athletes Grant Program 2017 年度 応募必要書類リスト	24
表 7	San Diego Triathlon Challenge 概要	26
表 8	Operation Rebound 概要	29
表 9	Catch A Rising Star 概要	30
表 10	Community Outreach 概要	31
表 11	CAF のソーシャルメディアの活用状況（2017 年 11 月 18 日現在）	34

第1章 序論

本研究は、筆者が14年に渡り、日本代表として障害者スポーツの競技生活を送る中で、アメリカの障害者スポーツ支援団体 Challenged athlete foundation（以下、CAF）の存在を知り、CAFの支援を受ける多くの障害者アスリートと出会い、興味を持ったことから始まった。

まず、筆者はパラリンピック競泳日本代表として、2004年アテネに出場したが、CAFの支援を受けるアスリートであるアメリカ代表の Rudy Garcia-Tolson 選手と出会った。その後、2008年北京、2012年ロンドンのパラリンピックへ出場した際にもCAFの支援アスリートと会った。

さらに、2016年リオパラリンピックでは、CAFがアメリカ人以外の選手も支援することを知り、興味を深めた。筆者はトライアスロン日本代表として出場することになり、日本人初のパラリンピック夏季大会の2競技出場選手となったが、この競技変更は、アメリカの Sarah Reinertsen 選手やオーストラリアの Katie Kelly 選手など、さらに多くのCAFから支援を受ける選手と出会うきっかけとなったのである。

このような経験から、障害者アスリートを支援するCAFは、どのように資金を集め、どのような障害者スポーツ支援プログラムを実施しているのかを研究したいと考えた。

第1節 CAFについて

アメリカのCAFは民間のNPO法人団体でありながら、障害者がフィットネスや競技を通じて、活動的な生活が送れる様に、スポーツの機会を与えると共に支援することを目的として、これまでに76百万ドル以上の資金を個人、及びスポンサーから集め、世界の障害者13000人以上に資金提供を実施している。また、毎年独自の障害者スポーツの普及プログラムも実施している団体である¹。

第2節 先行研究

先行研究としては、障害者スポーツの海外における強化の実態は、藤田（2015）²と佐藤（2011）³が諸外国の取り組み事例を踏まえ、パラリンピック発展モデルについて述べている。また、山口（2015）⁴はカナダの障害者スポーツの現状を探るべく、スポーツカナダ、カナダパラリンピック委員会、カナダスポーツ研究所、アビリティ・センターについて調査をした。

しかし、民間支援団体の障害者スポーツの普及・育成に関して、述べられている研究は見当たらなかった。

第3節 研究の意義

アメリカの民間支援団体CAFの資金調達方法及び、障害者スポーツの普及・育成プログラムへの取り組みについて、CAFの関係者よりインタビュー調査し、CAFの障害者ア

スリート支援モデルを明らかにすることは、今後の日本における障害者スポーツ普及に有用な情報を提供すると考える。

第4節 研究の目的

本研究の目的は、アメリカの民間支援団体 CAF の資金調達方法及び、障害者スポーツの普及・育成プログラムを明らかにすることである。

第2章 研究方法

第1節 CAF 関係者に対するインタビュー調査

アメリカの民間支援団体CAFの資金調達方法、及び障害者スポーツの普及・育成プログラムを明らかにするため、web調査及び、CAFの関係者へインタビュー調査を実施する。

第1項 調査対象

- 1) Bob Babbit 氏
(co-founder of CAF)
- 2) Travis Ricks 氏
(Sr. Programs Manager at CAF)

第2項 調査項目

- 1) CAF の設立時からの活動
- 2) CAF の資金調達方法
- 3) CAF の活動プログラム
- 4) CAF の今後の展開

第3項 分析方法

インタビュー調査から CAF の発展を項目ごとに分析する。

第3章 結果

本章では、トラビス・リック氏に対するインタビュー結果を記述する。下記にある表1の項目ごとに必要であったアクションや背景・プロセスについて調査をした。トラビス・リック氏は2003年に障害者になったきっかけから、CAFでボランティアを始め、2008年にCAFの正社員になっている。その後、マネージャーを任されてから、9年プログラム部門に勤め、これまでCAF主催のキャンプやクリニックをアメリカ中で開催している。現在、CAFのコンサルタントマネージャー兼プログラムマネージャーを務めており、CAFの成長を内外で見えてきている中心人物の一人である。

表1 トラビス・リック氏に対するインタビュー項目

1	CAFの設立時からの活動
2	CAFの資金調達方法
3	CAFの活動プログラム
4	CAFの今後の展開

第1節 CAFの設立時からの活動

第1項 CAFの創生期

1) CAFのはじまり

CAFは、事故により四肢麻痺障害になったJim MacLaren氏が自立をして暮らせる手助けをするために、1994年イベントで寄付金を集め、車を購入することを目的に始まった。そして、この活動に共感した多くの人から「これは本当に素晴らしいことです。障害者が競技をするためのスポーツ用器具など保険では購入できないものがあるので、寄付金を必要としている人たちが他にも多くいる」と言われたことにより、活動を継続し、1997年に3人の創設者達によって、CAF設立に至ったのである。以下に、インタビューの詳細を記載する。



図 1 Jim MacLaren 氏

出典：Challenged athlete foundation 公式サイトより



図 2 CAF 創設者（左 Rick Kozlowski 氏、中央 Bob Babbitt 氏、Jeffrey Essakow 氏）

出典：Challenged athlete foundation 公式サイトより

まず、最初に CAF のはじまりを話す上で Jim MacLaren の話をします。Jim は、Yale 大学のフットボール選手でした。大学を卒業した後、ニューヨークに行きましたが、1985 年バイクに乗っている時にバスにはねられた結果、ひざ下から足を失いました。その後、Jim はトライアスロンを始めて、南カリフォルニアに移り住み、トライアスロンで活躍し、1992 年の Iron man では 10 時間 42 分の記録を残しています。この記録は、健常者にとってもすごい記録です。

しかし、1993 年のレース中にトラックによってはねられてしまい、Jim は電柱に衝突し、四肢麻痺になりました。多

くのトライアスロン界の友人たちは Jim が自立して暮らせるように手助けをしたいと思い、だいたい 20,000US ドルの寄付金を集め、彼の使える車を購入しました。そして、友人たちはトライアスロンを開催し、最初の年で合計 49,000US ドルを集めました。彼らの活動をみた多くの人たちから、「これは本当に素晴らしいことです。障害者が競技をするためのスポーツ用器具など保険では購入できないものがあるので、寄付金を必要としている人たちが他にも多くいる」という話を聞きます。それで、友人たちはそのまま活動続けることにし、3 年間同様の活動をした後、CAF を立ち上げようと決めたのです。1994 年から寄付金集めのイベントは始めましたが、1997 年に 3 人の創設者 Jeffrey Essakow、Bob Babbit、Rick Kozlowski によって正式に CAF が設立されます。

2) CAF 設立当初のビジネスモデル

CAF には設立当初、ビジネスモデルはなかったが、CAF の精神となる「ただより多くの障害者アスリートが活動的になること」を一つの柱としていた。1994 年のトライアスロンイベントにおいても、大きな金額の寄付金が集まるとは想像しておらず、CAF 設立には地域の人からの大きな反響が後押ししたのである。以下に、インタビューの詳細を記載する。

私（トラビス・リック氏）は当時所属していなかったので聞いた話になります。当時は、トライアスロンイベントを開催して、寄付金集めをしていました。彼らの友人や仕事仲間の 25 人に声をかけて寄付金を募り、またその 25 人が、彼らの友人などにさらに声をかけてという形で、結果 49,000US ドルを集めました。プロモーションの大部分は口コミと、トライアスロンコミュニティ内の情報に頼っていました。基本的に、彼らは友達を助けたかっただけで、なにもビジネスモデル的なものはなかった。

このような活動を続けていく中で、多くの障害者アスリートがスポーツ器具や活動場所を必要としている事が分かってきたため、CAF を設立した。つまり、当時のビジネスモデルは「より多くの障害者アスリートがそれぞれ活動的になれるように助ける」になります。このような方法で、大きな金額を集めることができるとは期待していなかったのも、期待以上でした。結果的に、最初のトライアスロン大会の参加者は 23 人程度でしたが、このイベントで集まったお金は創設者の 3 人が管理して、税金も払いました。

※次章に設立者によるインタビューから設立当初の取り組みやエピソードの詳細を記述している。

第 2 項 CAF の組織概要について

1) CAF の施設設立と活用について

CAF の施設は、“Buy Bricks Campaign”というプログラムにより、CAF を支援したい多くの人たちの寄付金によって、2010 年に建設された。そして、寄付者たちに「自分もこの施設の一部なのだ」と感じてもらえるように、CAF への貢献に感謝の意を表す「Hope Wall」など様々なモニュメントを施設に残している。

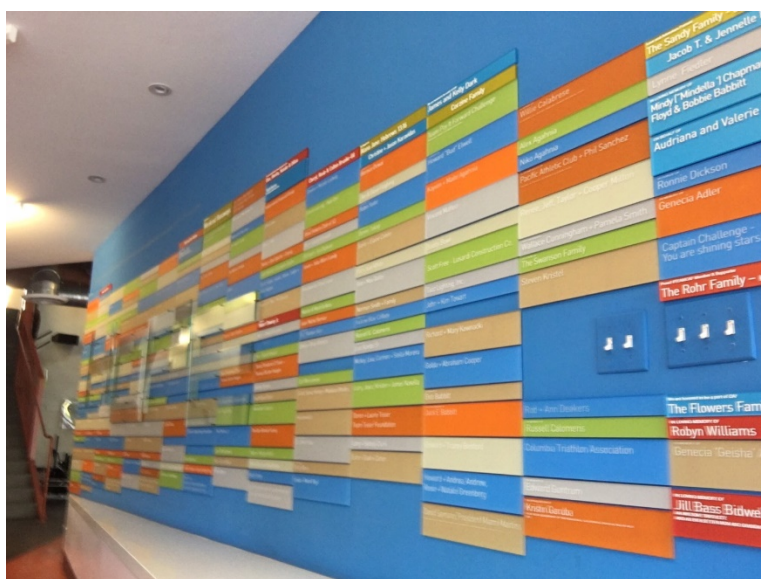


図 3 CAF の「Hope Wall」

現在、この施設は2階建てになっており、1階はイベント・交流の場として様々な用途で使用され、多くのプログラムで使用する器具も揃えられている。2階は24人の職員が働くオフィスになっている。

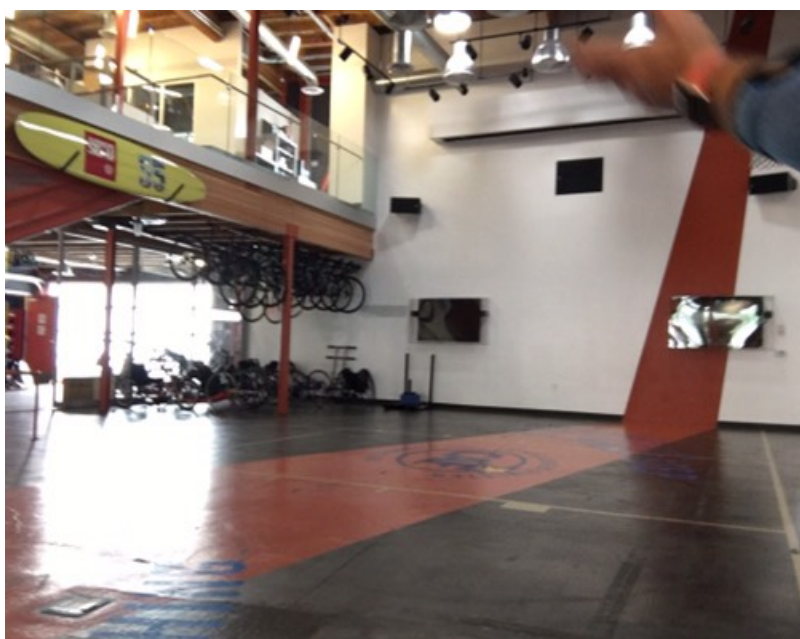


図 4 CAF の1階イベント・交流スペース



図 5 CAF のジム

また、現在この施設はサンディエゴの地元の子どもたちがいつでも使用できるように永久会員証を渡しており、この施設が地域への貢献にもなっている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

CAF の施設は 2010 年に建てられました。この施設を建設するために大きな助けになったプログラムが、“Buy Bricks Campaign”になります。施設を建設するとき一回のみ実施したプログラムで、小さいレンガは 250US ドル、大きいレンガは 500US ドルで寄付を募りました。壁にあるレンガを購入して、それが寄付となり、この建物を建てる費用を補うことができるプログラムです。これらのレンガは、「私もこの建物を建てることに貢献した 1 人だ」と言うことができるシンボリックなモニュメントになっています。このモニュメントを、「Hope Wall」と呼んでいます。施設内にこのようなモニュメントを残しておくことは、寄付してくれた人たちが、自分もこの施設の一部なのだと、感じる事ができる大切なモニュメントです。

他にも、「Recognition wall」もあります。大きな額を寄付してくれる提供者や、資金提供をしてくれた人たちの名前を壁に記し、感謝の印とするとともに、彼らの提供の証でもあります。この施設には、様々な形で、提供者への感謝を表しているモニュメントがたくさんあります。

現在、施設は、2 階建てになっていて、2 階がオフィスで、1 階はイベント・交流の場として利用する目的で作られています。1 階では、バレーボール・車椅子バスケット・ウェルチエラグビーと様々な練習場として活用しており、多くのイベントやクリニックもやります。また、ジムも併設されており、アスリートが誰でも利用できるようになっていて、ジムの器具も寄付で提供されたものです。

また、この施設は義足選手の自転車プログラムを始めたところなので、レース用の車いすレーサーも含めて多くの新しい自転車があります。他にも様々なプログラム用の器具があります。自転車プログラム以外にも、トライアスロン

プログラム、大人用のサーフィンプログラムもあるので、多くのサーフィン用具があります。

他にも、ロッカールームやシャワールーム・バスルーム・倉庫にキッチンが2つあって、レクリエーションルームも完備しています。15年前の施設は競技トラックの横の小さな小屋で、5人で満員でしたが、今では、24人の職員がこの施設で働いています。

この施設は、街の中心にはないので、サンディエゴのYMCA（スポーツクラブ）との関係を通して、サンディエゴに在住している地元の子供たちに、永久会員証を提供し、いつでも利用してもらえるようにしています。

2) CAFの役員メンバーの変遷について

CAFの役員は現在に至るまで大きな変更はない。創設者の地域における友人同士から現在の役員が集まり、銀行関連や金融業の人たちが多く、これまでCAFの財源の確保に大きく貢献してきた。最近では、障害者アスリートなどの新しい人材が役員に入ることもあったが、結果が出ている限り、役員の大きな変更は考えていない。以下に、インタビューの詳細を記載する。

創設時からこれまで、役員にほぼ変更はありません。CAFの社長と創設者も創設時から変わっていません。役員は、少しの変更はありましたが、創生期から貢献してくれている人たちなので、今後も変わる予定はないです。

役員に関しては、一般的なNPO団体と違い、私たちは同じメンバーで続けられるようにしています。役員の変更がない大きな理由は、役員が創生期から資金調達に関してアイデアを出してきて、組織が成長しても、彼らの経営方針は結果を生んで成功し続けているので、変える必要はないからです。

役員の多くは、Jeffrey Essakowの私的な友達やビジネス関係の仲間や、社長や他の創設者の仲間で、大方は銀行関連や、金融業の人が多いです。その理由は、彼らは他の財源となる人たちと強いコネクションをもっているからです。資金調達に必要なことは、当然ながら経済的なことが関わってきて、彼らはそういった事に理解が深く詳しいからです。意図的に関連のあるメンバーを集めたのかは分かりませんが、結果的に財源を確保したりサービスを提供してくれたりしたのは、今の役員達でした。

ただ、最近では、障害者アスリートが役員を務めたこともありますし、ビジネス上での関係者や、投資家の方がもつとこの組織の成長を見たいというような理由で役員になっている人もいます。他にも、サイクリングプログラムに参加していたメンバーが、CAFの活動に深く関わり始め、役員メンバーになったケースもあります。そのような新しいメンバーの貢献や、経営方針、アイデアが組織に影響していることもあります。大きく今後も変わる予定はないです。

3) CAFの雇用システムについて

CAFには、正式な組織図が現在も存在していない。CAFは自然の流れの中で大きくなり、その都度新しい組織を作っており、現在も組織としては成長している。今年、CFOが決まり、専門的に集中して管理する経理部門ができた。このように、近年に社員雇用も進めてきている中で、現在まで手作りであった小さな組織も少しずつ組織体制を構築してきており、今後さらなる成長が期待できる組織になってきた。

CAFの社員の募集方法は、ホームページや口コミで実施されている。また、社員の担当は毎年会議で決めており、一般的な人事についてはNPO法人と変わらない。以下に、インタビューの詳細を記載する。

現在、CAFでは組織図は作成していないです。なぜならCAFは、まずボランティアを募って、運営的なスタッフ1人

というところから始まって、その人が全てを担っていた。そこからイベントを手伝う人が増えていったという感じで、全て自然な流れの中でできた組織です。会社が大きくなるごとに、イベントが増えてきたので、マーケティング部門、資金調達部門、プログラム部門などが増えていった、成長していったという感じです。10年前のプログラム部門は Tabby という女性 1 人だけでした。今は 6 人もいる組織になりました。

最近やっと CFO が決まったところです。今までは、経理部長 1 人でしたが、CFO ができ、他に 2 人 経理部の社員がいます。経理部門としては、今が一番大きいです。組織ができて 20 年経って、今までは、必要に応じた流れで対応していましたが、これからは、専門的に集中して管理する経理部門が必要になってきているところです。

本当に小さな組織から始まり、手作りでやってきた CAF としては、今の成長は驚くべきものです。今までは小さな手作り組織なので、社員を抱えることは第 1 としていなかった。社員を抱えるのは大変で、リスクもあります。今はここまで成長し、次の目標も明確で、状況は変化してきています。ここ数年においてもアップダウンがあり、色々試行錯誤の期間でした。前にも CFO を作ろうとしたことはありましたが、結果的にうまくいかなかったこともあります。でも今、上向きになっています。CAF は、完全に優良なロールモデルではないし、あなた（筆者）が目指すものの参考になるかは分からないけれど、これまで手作りで試行錯誤する中で、しっかり成長してきた組織だと思っています。

CAF の社員の採用では、常に募集はしていないけど、必要な時にはウェブサイトと口コミで募集しています。自社ホームページ以外のなにかしらのオンライン情報に載せることもあります。基本的にはホームページか、現社員からの口コミです。

CAF の所属担当は毎年変わります。イベントやプログラムごとに、その都度、会議で決めていきます。個人的なサラーリーに関しては、オープンに公開していません。社員の昇給やパッケージなどは人事の担当チームで、相談して決めています。

4) CAF とボランティアの関係

CAF では、年間 5000 人以上のボランティアに協力してもらっている。San Diego Triathlon Challenge については、3000 人以上のボランティアに協力をしてもらっており、CAF にとってボランティアの存在は非常に重要である。

練習会のボランティアについては、その種目についての一定の有識者に協力してもらっている。また、San Diego Triathlon Challenge では CAF のボランティアコーディネーターが基本的な仕事内容を依頼し、それぞれのボランティアに作業を振り分けているため、事前にボランティアに対しての教育はしていない。以下に、インタビューの詳細を記載する。

CAF がプログラムやイベントを実施するために、ボランティアなしでは成り立ちません。San Diego Triathlon Challenge では、3000 人の方にボランティアをしてもらいました。

ボランティアの募集については、特に CAF から働きかけなくても集まってきてもらえます。会社から派遣されるボランティアもいて、会社の宣伝も兼ねてボランティア活動をしてもらいます。正確に協力してもらった年間のボランティアの数はわかりませんが、おそらく 5000 人以上くらいに協力してもらっています。

ボランティアの教育については、特に CAF で特別なことはしていません。例えば、Run クリニックでは、フィジカルセラピーの生徒をボランティアとして起用しているため、彼らは既に学校で教育を受けており、なにかを教える必要はありません。水泳クリニックでは、水泳のマスタークラスの人たちをお願いしているので、コーチではないですが、十

分な技術を身につけている人たちなので、CAF から教育はしないです。San Diego Triathlon Challenge ボランティアなどでも、荷物を運んだり、ゴミ捨てや、景品、お土産などのパッキングだったり、特に教育が必要な仕事はありません。また、CAF のボランティアコーディネーターが、ボランティアにそれぞれ作業を振り分け、ボランティアは指示に従って動くので、事前教育がなくても問題ないです。

5) CAF とパラリンピック選手の関係

現在、パラリンピック選手に対して、優先的な特別な支援はしていない。むしろ、これまでサポートしてきたパラリンピック選手には CAF の宣伝の役割を基本的に無償でもらっており、イベントやスピーチに協力してもらっている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

Athlete とのコラボレーションは、基本的に CAF が寄付をしてサポートする、という関係性になります。ただ、パラリンピック選手レベルになると、IPC などから他のサポートが既にあるので、パラリンピック選手には支援金を渡さないということではないけれど、優先的ではなくなります。CAF としてはその時に、器具などを、最も必要としている人や、子供達に優先的に寄付が届く様に考えています。最近の 10 年の変化としては、寄付されたアスリートたちが、CAF の宣伝をしてくれるようになりました。最近も何人かのアスリートのインタビューを撮影しました。特に最近は、アスリートに宣伝の役割を担ってもらうことが多くなってきました。他にも、CAF が主催するイベントでスピーチや講演会をしてもらうこともあります。

第 2 節 CAF の資金調達方法

第 1 項 イベント収入

1) CAF の資金調達イベントについて

CAF の設立当初はイベントに対して、小切手での寄付のみを受け取ってたが、現在 CAF の資金調達イベントには表 2 のように 5 つあることがわかった。

表 2 資金調達イベント一覧

1	San Diego Triathlon Challenge
2	100million dollor Challenge
3	ニューヨーク Gala、他地域開催 Gala
4	Race for Reason によるイベント
5	各種イベント

2) スポーツイベント

CAF の 2017 年現在における主要資金調達イベントは、3 つある。スポーツイベントとして、1 つ目は、San Diego Triathlon Challenge で 1.2millionUS ドル、2 つ目は自転車の million dollars Challenge で 1 million US ドル以上の寄付金を集めていることがわかった。3 つ目は、Gala である。

他にも、数年おきにいくつかの自転車イベントにおいて、寄付金を集めている。

CAF は、基本的に資金調達額の多くはパートナーズポンサーからの寄付になっているが、CAF としては、イベントでの寄付金集めを重要であると考えている。理由としては、CAF で収入額のコントロールができるためである。以下に、インタビューの詳細を記載する。

資金調達イベントには、現在主要イベントとしては、San Diego Triathlon Challenge、自転車の million dollars Challenge、ニューヨーク Gala、他地域開催の Gala があります。

自転車の million dollars Challenge はサンフランシスコからサンディエゴまでの 6 日間の自転車横断イベントです。このイベントも、1 million US ドル以上を集めました。サンディエゴトライアスロンチャレンジは 1,2million US ドルを集めることができます。

主要イベント以外では、数年おきに行われる自転車イベントがあり、ノーザンカリフォルニアや、セントラルカリフォルニアでも開催されます。南アフリカでも一回サイクリングイベントを開催しました。南アフリカでのイベントは、創設者達のルーツが南アフリカにあり、その関係があって開催されたのだと思います。

CAF は基本的にパートナーズポンサーからの寄付が大きく占めています。これらが、CAF の資金集めのまともになります。CAF としては、イベントでの寄付金集めが、CAF で収入額のコントロールをすることができるので、今後重要になると考えています。

3) Gala

Gala とは、集めた寄付品のオークションの実施やビデオ鑑賞、エンターテインメントが入ったパーティーイベントでアメリカでは慈善活動を目的として開催されることが多い。CAF は、テーブル席を 10,000US ドル、チケットを 500US ドルで販売することで、売り上げをあげている。ニューヨーク Gala では 2,5millionUS ドルを集め、他地域開催の Gala でもニューヨーク Gala に近い金額を集めている。

第 1 項のスポーツイベントと Gala を合わせた主要イベントは、CAF の資金調達額の多くを占めている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

Gala とは、資金調達イベントです。多くの人がドレスアップして集まって、Live auction , Silent auction をやって資金を集めます。CAF の話をします。ニューヨーク Gala では、エンターテインメントとして、バンドも入ったりしますが、CAF のビデオを見るのが中心です。資金調達の方法は、Live auction , Silent auction のチケット購入、またはテーブル席購入になります。値段としては、テーブル席が 10,000US ドル、チケットが 500US ドルくらいになります。Gala の規模によってそれぞれです。参加者は、裕福な財源を持っている方が多いです。Gala の参加者全員が資金提供者ということではありません。財源のある人たちが、友人と参加するケースもあります。ニューヨーク Gala には、800 人程度集まります。Gala だけでも 2,3millionUS ドル集めることができます。他地域開催の Gala でもニューヨークより規模は小さいものの、大きな金額を集めることができます。

このように、スポーツイベントと Gala を合わせた主要イベントは、1 日だけのイベントですが、これを全て合算すると、CAF の資金調達額の多くを占めます。

4) Race for reason

Race for a reason プログラムは、このプログラムに参加している既存のイベントに自ら参加することや CAF との連携により個人でレースを開催することにより、CAF の

ために寄付ができるプログラムである。イベントは、必ずスポーツである必要はなく、結婚式やパーティー、ミニコンサートにでも使用できる。

Race for a reason プログラムを使用するための登録料は、25US ドルになっており、寄付額が 100US ドル以上の寄付者には特典が CAF から送られている。

このプログラムの具体的なスポンサーシップパッケージについての話は現在においては CAF のビジネス開発ディレクターのナンシー・レイノルズ氏と話し合う必要がある。

このプログラムにより、毎年 1millionUS ドルほどの寄付金が集まっている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

Race for a reason プログラムは、誰でもレースを主催したいと思ったら、Race for a reason プログラムを利用すれば、開催できるというプログラムです。なんでもいいので、なにかの理由を決めて、開催したいレースやイベントを決めれば、誰でも自分のいる場所で、家族や友人と一緒に資金調達ができるのです。参加者は CAF が提供するウェブサイトにオンラインチェックで寄付します。

Race for a reason プログラムも、大きな額を毎年提供してもらっており、毎年 1millionUS ドルほどになります。

第2項 スポンサー収入

1) スポンサーの種類について

スポンサーの種類は主に3種類あるものの、その中に何種類もの契約形態があり、毎年それぞれの契約に合わせて変化している。一番収入が大きいグローバルスポンサーはだいたい1～3年契約になっており、プログラムスポンサーは数年契約で結ぶことが多い。以下に、インタビューの詳細を記載する。



図 6 2017 年 CAF GLOBAL PARTNERS

出典：Challenged athlete foundation 公式サイトより



図 7 CAF の 2017 年スポンサー募集要項

出典：Challenged athlete foundation 公式サイトより

スポンサーシップの種類は主に 3 種類あります。Brand Partnership と Event Partnership と Program Partnership です。Brand Partnership にも契約形態によって、種類は色々あって毎年変わります。今でいえば、イベントスポンサーやグローバルスポンサー、プログラムスポンサー、パートナーズスポンサー、助成金スポンサーなど多くの種類があります。グローバルスポンサーは CAF にとって一番大きいスポンサーになります。他にも例えば、サンディエゴの YMCA は、永久会員証を提供してくれてるので、パートナーズスポンサーと呼ばれるカテゴリーになります。メイングローバルスポンサーは、だいたい 1～3 年契約です。契約延長については、オファーする内容が、CAF にとって必要な価値があるかどうかや契約内容次第で、CAF が決定します。スポンサーの種類は本当に色々あって、1 年のみの寄付もあれば、1 日イベント、Bike ride イベントそれぞれだけのスポンサーもあります。プログラムスポンサーの場合はだいたい数年契約になっています。

2) スポンサー獲得について

CAF はスポンサー獲得のための部署があり、広報活動で一番使用しているのはビデオのプレゼンテーションである。基本的に、スポンサーは CAF と共通の事業をしているスポンサーが多い。

現在もスポンサー獲得のための広報活動を続けており、NIKE のようにスポンサーに積極的に働きかけを続けていくことで、どの企業も重要なスポンサーになりえると CAF は考えている。CAF が今後スポンサーを獲得するために、一番重要だと考えていることは、「アイデアをだして開拓して、ビデオなどのツールを使ってアピールする」こと

をやり続けることである。以下に、インタビューの詳細を記載する。

CAF には、スポンサーを獲得するための部署 Business development department があって、CAF からスポンサーシップを探して働きかけるチームです。スポンサーになってくれそうな会社を探して、コンタクトして、フォローアップ、プレゼンテーション、交渉などをします。

現在のスポンサー会社は、なにかしら共通点がある事業の会社が多いです。例えば、YMCA は、スポーツアクティビティを基調にしているし、NIKE もスポーツ関連の会社です。Ossur は、義肢の会社なのでもちろん関りがあります。Accenture については、事業に共通点がある訳ではないですが、知り合いの紹介があったからだと思います。他にも共通点がなくても、純粋に CAF の活動に興味を示してスポンサーになってくれる会社もあります。

CAF がスポンサー獲得のための広報活動に一番使用しているのはビデオになります。アスリートやイベントの紹介ビデオを You Tube や flicker などの媒体で使っています。例えば、ある障害者アスリートが 100 マイルの自転車レースや、26 マイル走などを腕なしの障害者として初めて達成した模様を 1 分ほどのビデオで作成し、CAF がアスリートに与えるインパクトを知ってもらうようにしています。ビデオ撮影には、ビデオグラファーを起用します。CAF が作成する映像もあれば、他団体が作成してくれたビデオに CAF が紹介されているものを紹介することもあります。

今も常にスポンサーを広げる努力をしています。今 10,000 ドルスポンサーでも Million dollar スポンサーに繋がる可能性もある。Nike は今年 200,000US ドルを支援してくれたけど、これまでの関係を築いていく間にもずっと支援をしてくれていて、Million dollar 投資してくれている。だから、NIKE は特に重要なスポンサーだ。スポンサーとドナーは別のもので、毎回 Million dollar 提供してくれるドナーもいる。Danny や Jeff & Jacobs は、この建物に、400,000 ドル支援してくれた。毎年状況で変わるし、あとは、タイミング的な問題もある。Junior sales は、新しいプログラム作成のタイミングで 200,000 USD 出してくれた。いつも新しいアイディアを出して、新しいスポンサーを見つける努力をしています。とにかくスポンサー獲得のために一番重要なことは、担当チームがアイディアをだして開拓して、ビデオなどのツールを使ってアピールする。それ以上の戦略を練るというより、それらをとにかくやり続けることが重要だと思っています。

3) CAF がスポンサーから選ばれ続ける理由

CAF がスポンサーから選ばれ続ける理由として、CAF の精神やミッションに大きな共感を得ることができており、スポンサーの家族・友人にも寄付することの理解・共感を得ることができるためである。他にもスポンサーはイメージアップ・税金対策につなげることのメリットがある。

また、CAF は収入の 80% を個人の寄付に充てており、寄付者が直接個人を支援できている実感を持てることも大きなメリットになっている。スポンサーが CAF の支援をやめるケースは、人事的・経済的理由の場合のみである。以下に、インタビューの詳細を記載する。

CAF が選ばれ続ける理由は、CAF の精神、ミッションに共感を得ているからだと思います。CAF は、障害を持っている個人個人が、実際によりいい生活や人生を送っていけるように手助けするというのが、一番の目的です。CAF は、他の団体よりも CAF の精神に深い理解があると考えています。また、なにかのアクシデントはいつ誰にでも起こり得ることを伝えることにより、スポンサーの家族・友人たちなど、多くの人からの理解・共感を得る事ができます。金融・経済的な面では、各スポンサー会社は、CAF への投資により、いいイメージを得ることができますし、NPO 法人への投資

は、税金削減対策にもなります。

他にも、CAF は、収入の 80%を個人への寄付に充てています。人件費は 20%しかかけていません。そのような形態を保てるのは珍しいことです。一方、多くの団体は、人件費にほぼ費やされてしまいます。CAF に投資すれば、実際に直接個人を助けられるという事実が大きなメリットになっています。

もちろん残念ながら、スポンサーが離れていくときもあります。スポンサー側の経営事情で、寄付の予算がなくて終了する場合もあれば、スポンサー側の担当者が、CAF の活動分野に対して、個人的な理解や関係を持っていて、その担当者が移動し、別の担当者に変わってしまい、スポンサーシップが終わる事もあります。他にも、CFO の変更により、会社の方針が変わって打ち切りになったこともありました。ただ、スポンサーが離れていくことの原因では、人事的な理由か経済的な理由以外が原因になることはありません。

4) Charity Navigator による CAF の評価

アメリカには、寄付者によって NPO 法人が評価されている web サイトがある。その web サイトが Charity Navigator である⁵。下記にトラビス・リック氏からのインタビューと Charity Navigator の評価をまとめた。

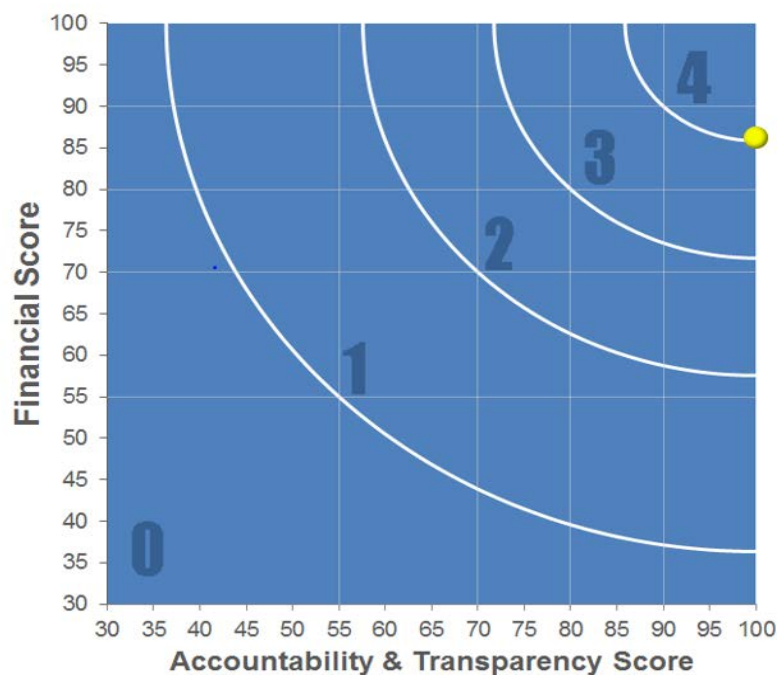


図 8 Charity Navigator における CAF の評価グラフ

出典：Charity Navigator 公式サイトより

上記の図 8 のように、縦軸がファイナンシャルスコアになっており、横軸は説明責任と事業の透明性に対するスコアになっている。CAF の評価点は黄色の点である。

Financial Performance Metrics	
Program Expenses <i>(Percent of the charity's total expenses spent on the programs and services it delivers)</i>	80.8%
Administrative Expenses	3.1%
Fundraising Expenses	15.9%
Fundraising Efficiency	\$0.14
Working Capital Ratio (years)	0.53
Program Expenses Growth	13.4%
Liabilities to Assets	29.7%

図 9 CAF のファイナンシャルパフォーマンス

出典：Charity Navigator 公式サイトより

上記の図 9 や収支を参考に Charity Navigator では、ファイナンシャルスコアを評価している。

Accountability & Transparency Performance Metrics	
Information Provided on the Form 990	
Independent Voting Board Members	☒
No Material diversion of assets	☒
Audited financials prepared by independent accountant	☒
Does Not Provide Loan(s) to or Receive Loan(s) From related parties	☒
Documents Board Meeting Minutes	☒
Provided copy of Form 990 to organization's governing body in advance of filing	☒
Conflict of Interest Policy	☒
Whistleblower Policy	☒
Records Retention and Destruction Policy	☒
CEO listed with salary	☒
Process for determining CEO compensation	☒
Board Listed / Board Members Not Compensated	☒
Is the following information easily accessible on the charity's website?	
Donor Privacy Policy	☒
Board Members Listed	☒
Audited Financials	☒
Form 990	☒
Key staff listed	☒

図 10 CAF の説明責任と事業の透明性を表す項目

出典：Charity Navigator 公式サイトより

上記の図 10 の項目により、Charity Navigator では説明責任と事業の透明性を評価している。CAF は、全ての項目にチェックがついており、スコアが 100 点になっている。

CAF の今年の評価は総合 90 での 4 スターとなっており、寄付者から高い評価を得ることができている。特に、説明責任と事業の透明性では 100 点満点のスコアになっており、寄付者の信頼性が高い団体である。

また、Charity Navigator で評価の低い年は情報開示が遅れたことによる影響があり、CAF は寄付者からの信頼が重要である団体であることが表れている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

Charity Navigator では、NPO 法人をスコアで評価していて、そこで誰でも CAF の資金分配を見れます。Charity Navigator で確認できる資金分配の透明度が高い事によって、高い評価をされます。Charity Navigator の、資金分配の信頼度の評価について、CAF は 100%のスコアを得ています。全体のスコアについてもとても高いです。ファイナンシャルスコアも 87%あります。87%っていうのは、なかなか取れる数字ではないです。信頼度の評価で 100%を獲得するのも、かなりの偉業です。その他でも、様々な経理的な情報を Charity Navigator で確認できます。スターも 4 スターを獲得できています。

例えば、Charity Navigator で CAF が 3,2 million ドル は助成金に、1,3 Million は トライアスロンイベントに使用していることが確認できる。

他にも、過去のスコアも Charity Navigator で確認できる。これを見れば、全て一目瞭然です。2006 年のスコア 79 が一番低かったかな。2 スターや 3 スターの時みたいにスコアが低い時は、情報開示が間に合わなかったのが理由です。その頃は、経理部がなかったから、細かな情報提供が難しかった。そのような理由で、スコアは大きく変わります。今はスコア 90 もあります。他の団体も確認してもらえばわかるけど、スコア 90 ってすごい高いです。こういう信頼度、透明度が重要になります。

役員メンバーも載っているの、NPO 法人の情報として、すごくいいサイトです。

第 3 項 CAF の活動収益の推移とアメリカにおける社会的事象の影響

下記の図 11 のように、CAF は活動収益を順調に増やしており、1994 年の設立時の 49000US ドルから、20 年間で約 180 倍まで拡大した。アメリカにおける社会的事象が CAF の活動収益にどのような影響を与えたのかについてインタビューをした。

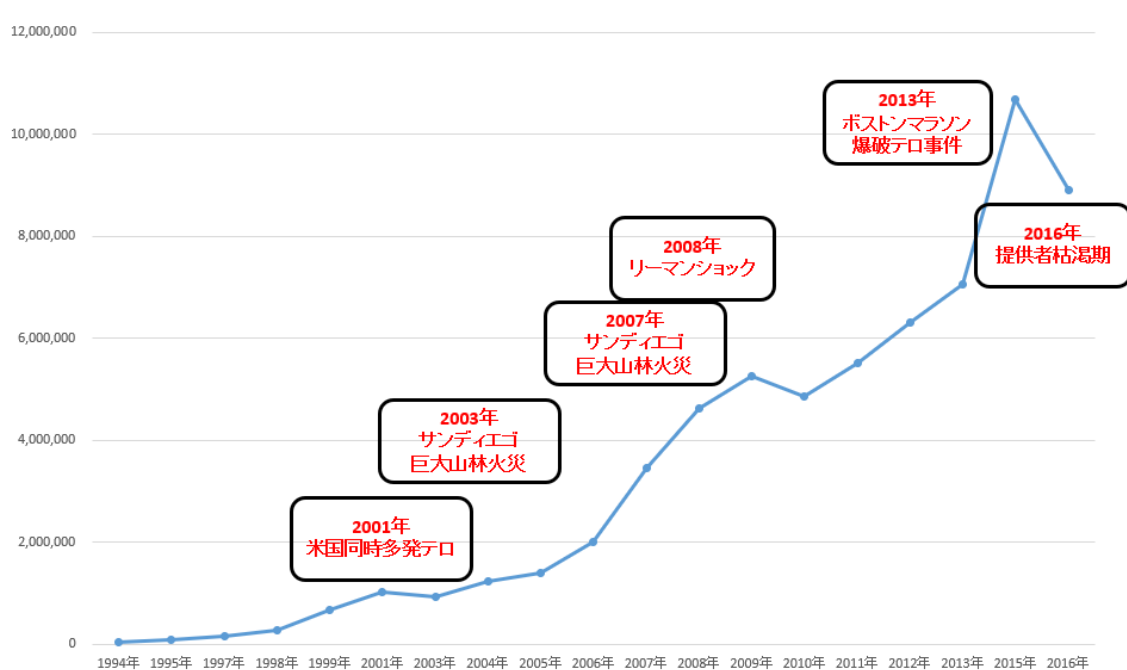


図 11 CAF 活動収益推移と社会的事象について

トラビス・リック氏によると CAF の活動収益は社会的事象の影響により、大きく収益を下げる年もなく、「人を助ける」という CAF の精神により、20 年間活動収入をあげることができたと話している。

2001 年に発生した同時多発テロが CAF に与えた影響は大きく、戦争で怪我した多くの軍人を支援するための operation rebound program (兵士の復帰プログラム)をはじめたきっかけになった。

2003 年、2007 年のサンディエゴ巨大火災のような自然災害ではイベントのキャンセルが起きたため、資金調達に大きな影響を与えた。理由としては、自然災害が発生したときは CAF 以外の財団に多くの寄付がされていくため、CAF に寄付が集まりにくいいためである。

2013 年のボストンマラソン爆破テロ事件においても、この事件により障害者になった人がいることから、CAF が注目され、支援も求められた。2001 年米国同時多発テロ事件・2013 年ボストンマラソン爆破テロ事件のようなアメリカにとって逆境なときほど、CAF は注目され組織としての力が強まっていった。

一方で、2008 年のリーマンショックなどの経済的な影響はあまり感じることはなく、どのような状況においても「人を助ける」という精神を変わず続けていくことが、CAF の発展になると考えている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

2001 年の 9.11 米国同時多発テロは CAF のとっても大きな影響がありました。2001 年以降、アメリカの多くの兵士が戦争に行き、怪我を負ってアメリカに帰還したため、CAF の寄付が多くの怪我をした軍人たちのために必要になりました。その時に、現在も続けているプログラムの Military operation rebound program (兵士の復帰プログラム) を始めました。新しいこのような情勢によっては、普段と違う活動が求められることもあります。

2003 年には、サンディエゴ巨大山林火災が発生した為、CAF の大きなイベントの一つであるサンディエゴトライアスロンチャレンジを開催するかキャンセルするか大変難しい判断でした。2003 年の時はイベントが火災の 1 週間後だったこともあり、開催しましたが、2007 年の巨大山林火災はさらに被害がひどかったため、サンディエゴトライアスロンチャレンジはキャンセルしました。このような災害があると資金調達に関しては、毎年いつも目標を決めていますが、達成するのは簡単ではないです。例えば、今年もハリケーンや、その他災害が多いため、多くの人がすでに他の財団に寄付しているため、CAF の活動に対して寄付金が集まりにくいのです。

2008 年のリーマンショックではあまり影響はありませんでした。2008 年時の CAF はニューヨークでの活動をほぼしていなかったからです。CAF はカリフォルニアで地元のトライアスリートとの活動だった、株のブローカーが多くいるのはニューヨークだったので、影響はありませんでした。

2013 年のボストンマラソンの爆弾事件の時も、CAF にとって大きな影響がありました。この爆弾事件の被害者に体の一部を失う人もいたため、CAF が注目されて助けを求められました。このようなアメリカにとって逆境な時に、CAF は組織としての力がさらに強まったと思っています。このような社会的事象に影響は感じているけど、経済的な変化には、あまり影響は感じていません。

去年から今年は、Donor fatigue (提供者枯渇期) と呼ばれています。ただ、経済状況がどうであれ、CAF の「人を助ける」という精神は変わらない。CAF は誰かが助けが必要な状況となれば、手を差し伸べる。この精神があるからこそ、CAF は発展することができ、強い組織になれたのだと思っています。

第 3 節 CAF の活動プログラム

CAF の Financial Statements に記載されている CAF が提供している下記の表 3 にある 6 つのプログラムについて、トラビス・リック氏のインタビューと CAF のホームページで確認した概要をまとめた。

表 3 障害者スポーツの普及・育成プログラム

1	Access for Athletes
2	San Diego Triathlon Challenge
3	Operation Rebound
4	Catch A Rising Star
5	Community Outreach
6	Paratriathlete Training

第1項 Access for athlete

Access for athlete は CAF のメインのプログラムであり、世界中の障害者アスリートを対象とした現金支給による助成金プログラムである。概要は下記の表 4 になっている。

表 4 Access for athlete 概要

内容	障害者アスリートを対象とした助成金プログラム
対象者	世界の全ての国が対象
資金提供額（2017 年）	3,700,000US ドル
支給実績（2017 年）	42 カ国、97 種目、2448 人
プロモーション方法	ホームページや SNS を利用
プログラムの始まった年	1994 年
CAF の今年度担当者数	3 人

下記の図 12 は、CAF の助成金プログラムの支給者数の推移を最近 4 年間でまとめたものになっている。

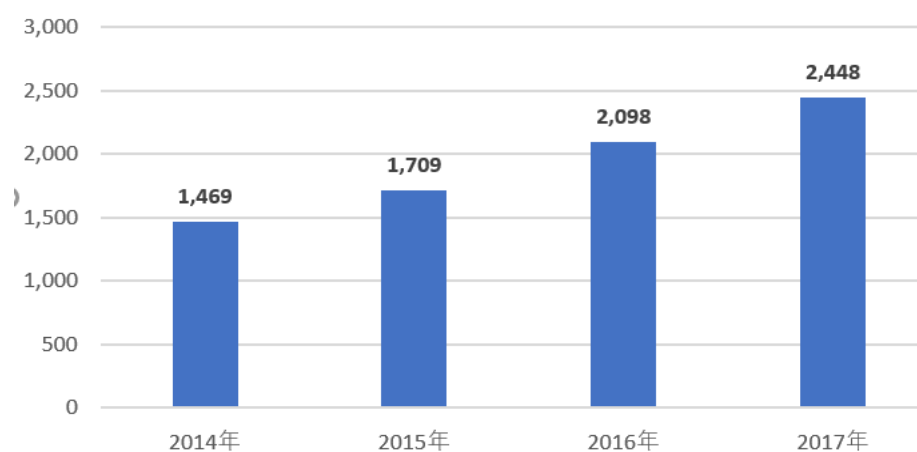


図 12 CAF GRANT 支給者推移

上記の図 1 2 のように、2014 年以降助成金の支給者数が増加している。2017 年は、42 カ国、97 種目、2448 人に対し、3.7million の助成金が支給されたことがわかった。また、支援金を支給した年齢層も幅広く、2017 年は 5 歳から 83 歳までに対し、支給していた。

応募方法については、ホームページ上で web による申請になっている。Web における質問項目は下記の表 5 のように、24 個の質問がある。

表 5 Access for Athletes Grant Program 2017 年度 WEB 応募質問項目

①	名前・住所・電話番号・メールアドレス・人種
②	18 歳以下ですか？
③	警察・消防・救急医療ですか？
④	どのようにして CAF を見つけましたか？
⑤	障害名を教えてください。
⑥	両足切断ですか？
⑦	障害を持った日はいつですか？
⑧	どのような理由で障害を持ちましたか？
⑨	あなたのこれまでの経歴を教えてください。
⑩	あなたのこれまでの競技経歴を教えてください。
⑪	あなたのメインとしているスポーツはなんですか？
⑫	あなたはどこかの障害者スポーツクラブに所属したことはありますか？
⑬	もし所属していれば、そのクラブを教えてください。
⑭	何年間そのスポーツをしていますか？
⑮	メインスポーツであなたはどのレベルにありますか？
⑯	パラリンピックに出場したことはありますか？
⑰	あなたの短期的目標はなんですか？
⑱	あなたの長期的な目標はなんですか？
⑲	この奨学金をどのようにして目標のために役立てますか？
⑳	あなたの個人のモットーはなんですか？
㉑	これまでにしたボランティアのリストを書いてください。
㉒	あなたのキャッシュスポンサーのリストを教えてください。
㉓	奨学金の使用方法（イベント・場所・ホテル・移動方法・予算）
㉔	CAF からの質問（YES or NO） （１）スポーツによって、障害者の自立に役立つと思いますか？ （２）スポーツによって、障害者がよりよい生活をすると思いますか？ （３）スポーツによって、障害者が生活をポジティブにすると思いますか？ （４）スポーツによって、社会的集団においてポジティブな印象を与えると思いますか？ （５）スポーツによって、セルフイメージをポジティブにすると思いますか？

また、web 申請に合わせて、応募に必要な書類として、下記の表 6 にある 4 つの書類リストの提出が求められる

表 6 Access for Athletes Grant Program 2017 年度 応募必要書類リスト

①	財務情報	個人所得がわかる書類一部
②	医師診断書	医師による障害の証明書
③	推薦書類	コーチ、チームメイト、先生、誰かの推薦書類
④	写真	スポーツに参加している写真

CAF は IPC のガイドラインで障害を持っていることが認められるアスリートを対象に、パラリンピックを目指すようなアスリートのみではなく、一般的なスポーツ種目という枠組みにとらわれず、日常の趣味における体をアクティブに動かしたいと考えているアスリートも対象に考えている。

助成金支給の選考では、その人の収入/経済状況、質問項目、個人的な目標やゴール、地域活動への貢献活動、家族構成をグレード評価し、助成金を支給している。また、CAF は優先的に子どもに助成金を支給している。

助成金には、下記の 3 つのタイプがある。

1. 器具購入費用・・・3 年に 1 度の支給
2. 大人のためのトレーニング費用・・・毎年支給
3. 競技・遠征費・・・毎年支給

支給額は、現在定額支給ではなく、寄付額・希望者・内容を考慮した上で決定しているが、今後は定額支給に変更することを考えている。

支給額は、通常 1000US ドル前後になっており、2000US ドルを超えることはない。

支給後は、受給者に直接 CAF から現金が支給され、支給者は領収書を CAF に送る手続きになっている。

CAF の助成金プログラムの申込者は、インターネットやロコミで情報を入手していることが多い。また、CAF は海外からの要望も増えてきたため、海外への支援も始めていたが、CAF が海外にも支援していることが大きく広がったきっかけは、ガーナ人の片足サイクリストが CAF の支援を受け、ガーナ一周を達成したドキュメンタリー映画が放映されたことである。

一方で、CAF が支援することが難しいケースがある。例えば、現在海外へのスポーツ器具の提供は輸送費のコストが高いため基本的に実施しておらず、海外選手への VISA 支援についても現金支給のみでアスリートの自己責任で取得するようにしてもらっている。他にも、アフリカからの支援依頼が多くあるが、所得情報や個人情報が入っていないことが多いため、このような場合は少額の支援金を送っている。CAF は 99%がアメリカ人による寄付金であるものの、寄付金の 10%は海外にも支給している。以下に、イン

タビューの詳細を記載する。

CAF の助成金プログラムは、障害者アスリート個人に対する現金支給のみです。IPC (International paralympics committee)のガイドラインで認められることができる障害を持っているアスリートだけが対象です。対象内であれば、スポーツのジャンルは問わないです。スポーツというよりも、体を使ってアクティブに活動しているということが対象なんです。日常の趣味として、自転車でサイクリングに行きたいという人でも、助成金を出します。もちろん競技の世界に入って、パラリンピックを目指すなら、それも手助けします。

助成金支給の選考には、グレード評価になります。着眼する点としては、その人の収入/経済状況、質問にどれだけ真摯に答えているか、個人的な目標やゴール、地域活動への貢献活動、家族構成などがあります。同じ収入額でも大家族なら、優先されますし、基本的に子どもにはできるだけ支給するようにしたいと考えています。

助成金には3つのタイプがあります。1つは、EQUIPMENT GRANTS でスポーツに関わる器具購入のための助成金で、3年に1回助成金を出しています。2つめは、COACHING & TRAINING GRANTS で大人対象のトレーニングに対する助成金で、毎年支給しています。3つめは、COMPETITION GRANTS で競技・旅費用のための助成金です。要するに、器具を購入し、トレーニングし、競技に参加し、その旅費まで全てを助成金として支給しています。

支給額については、現在については定額支給ではありません。その年の寄付額、助成金希望者の人数、具体的な内容を考慮した上で、CAF が決定します。ただ、今後は定額にすることも検討しています。例えば、国内レースなら1,000USドル、海外レースなら1,500USドルなどのような案が出ています。これまでも、通常一人あたり1000USドル前後の助成金額になっており、1人当たり2,000USドルを超えることはありませんでした。スポーツ器具に関しては、CAF で大量に購入することで割引額の購入が可能になるため、全額サポートができるようになっていきます。競技・旅費コストは、1500USドル〜2000USドルがあれば、大抵の場合は支援することができます。

CAF の助成金プログラムを知るきっかけは、インターネットや競技会での口コミがメインになります。例えば、多くの国際的なアスリートは、CAF に関わる人からの口コミでCAF を知ります。大会で使用されるスポーツ用具にCAF のシールが貼ってあるのを見て、CAF って何？と質問してきたりするのです。

また、CAF が海外に大きく知られるきっかけになったのが、Emmanuel's Gift というドキュメンタリー映画になります。CAF の評判が広まるにつれて、海外からも支援の要望が出てきました。最初は、国籍・スポーツの種類・年齢等関係なく人を助けるということが、CAF の精神ですので、希望があれば、自然な思いとして、海外の障害者アスリートにも助成金を渡せるようにしようという自然な流れでした。そして、海外への支援が加速する大きなきっかけになったのが、Emmanuel's Gift というドキュメンタリー映画です。彼はガーナ出身の片足のサイクリストで、CAF が助成金を出すことにより、ガーナを自転車で一周し、そのことについてドキュメンタリー映画にしました。彼は、ガーナの大統領からもコンタクトがあり、ガーナで有名になることによって、ガーナにおける障害者アスリートについての状況を多くの人に呼びかける大きな役を担い、ガーナの障害者アスリートの改善に貢献しました。Emmanuel 以前から、海外への支援は行っていましたが、まだそこまでCAF の口コミは広まっていなかった頃に、Emmanuel の物語によって海外にも大きく知れ渡りました。

しかし、いつも全員の全額をサポートができる訳ではありません。できる限りはなにかしらの形で提供したいですが、例えば、海外へのスポーツ器具提供は、コスト的に難しいため、あまりできていません。海外からのスポーツ器具サポートの申請があった場合は、競技・旅費コストをサポートすることにしたりしています。また、海外への遠征のためのVISA 発行などは、アスリートの自己責任だと考えているため、現金支給以外の支援はしていません。

できるだけ多くの人、多くのケースに対応したいですが、“誰”が“何を”必要としているかによっては支援が難しい時もあります。例えば、アフリカからのリクエストが多くあるのですが、その個人の収入額や経済状況によって、どういう人物なのかといった個人情報の確証を得るのが難しい為、すぐに1,500USドルを個人に送るということとはできないのです。このような場合は、通常より少なめの金額を送ります。アフリカなどの国では、少額の支援であっても、だいたい十分なことが多いと知っているからです。

毎年CAFの10%の寄付金は海外へあてられています。その他の、約80~90%はアメリカ国内への支給になっています。なぜなら、実質寄付金の99%は、アメリカ人からの寄付のため、アメリカ人に基本的に還元する必要があるからです。今年は2448人を支援しています。支援数は毎年上昇しています。CAFの成長とともに、支援数も上昇しています。

第2項 San Diego Triathlon Challenge

San Diego Triathlon ChallengeはCAFの創業前から実施されていたプログラムであり、2017年は障害者アスリートが200人以上参加し、合計参加者数は600人以上、ボランティアは3000人以上の大規模なプログラムある。また、このプログラムは資金調達のためのイベントにもなっており、2017年は1.2millionの資金調達を成功させた。

表7 San Diego Triathlon Challenge 概要

内容	トライアスロンの3種類をイベント形式で実施
場所	サンディエゴ
距離	1マイル swim、44マイル bike、10マイル run イベント形式のため厳格なルールはない
併設イベント	Tour de cove、5K、各種 clinic、他多数イベント
参加費用（寄付金）	600USドル以上/ 1人 1500USドル以上/ 1リレーチーム
参加者数（2017年）	障害者アスリート200人以上、参加者合計600人
資金調達額実績 （2017年）	1.2million USドル
プロモーション方法	ホームページやSNSを利用、ビデオ作製、紙媒体
プログラムの始まった年	1994年
CAFの今年度担当者数	スタッフ 23人全員 ボランティア 約3,000人



図 13 San Diego Triathlon Challenge BIKE 模様

出典：Challenged athlete foundation flicker より



図 14 San Diego Triathlon Challenge SWIM 模様

出典：Challenged athlete foundation flicker より



図 15 Tour de cove 模様

出典：Challenged athlete foundation flicker より

上記の表 7 のように、トライアスロン競技であるものの、イベントとして実施しているため、厳格なルールはなく、家族や子どもと楽しんで参加できるイベントになっている。

また、このプログラムは資金調達イベントとして、参加費が寄付金になっている。一人当たり 600US ドル以上、グループリレーに参加の場合は 1500US ドル以上で参加することが可能になっており、1000US ドル以上の参加費用を出した人には CAF のジャケットを特典として渡している。2500US ドル以上の寄付したグループ・人には CAF の GOLD TEAM になることができ、さらなる特典を受けることができる。

スポンサーには、2017 年度についてはパッケージの提案で 25000～100000US ドル、プログラムへのネーム入れには 2500～5000US ドルで依頼していた。

このイベントには、CAF が考える CAF に大きく貢献した有名人やアスリートが招待され、旅行費と入場料を CAF が負担している。

他に併設イベントとして、Tour de cove と冠した自転車の屋外イベントと、5K という 5Km をみんなで歩くイベントも実施している。特に、Tour de cove は、2017 年に 80,000US ドルの寄付金を集める資金調達イベントにもなっている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

僕たちのトライアスロンは、レースではなくイベントと呼んでいるんだ。一般的なトライアスロンとは違って、トレーニングタイムは計らない。みんなそれぞれスタートして、まず泳いだら、30 分後に自転車、終わったら 30 分後に走る。だから、タグオフもしないんだ。だから、障害者アスリートと、一般のアスリートと一緒に混ざってできる。それと、“Tour de cove”も大きなイベントです。“Tour de cove”は、San Diego Triathlon Challenge の一部なのです

が、これもまとまった寄付金を集めます。今年は、だいたい 80,000US ドルほど集めました。

第3項 Operation Rebound

Operation Rebound は 2001 年 9 月 11 日に起きた米国同時多発テロが発生したことにより新しくできたプログラムである。障害者になったアメリカの退役軍人、軍人、救急隊員、消防士、警察の方々の精神的、肉体的幸福を強化し、スポーツやフィットネスを利用して地域社会に戻り、スポーツを通じて力を発揮する機会の提供をするために作られたプログラムである。概要は下記の表 8 になっている。

表 8 Operation Rebound 概要

内容	退役軍人、軍人を対象とした助成金プログラム
対象者	障害を持つことになったアメリカの退役軍人、 救急隊員、消防士、警察
資金提供額（2017 年）	478,929US ドル
支給実績（2017 年）	307 人
プロモーション方法	ホームページや SNS を利用
プログラムの始まった年	2001 年
CAF の今年度担当者数	1 人

下記の図 16 は、CAF の助成金プログラムの支給者数の推移を最近 4 年間でまとめたものになっている。

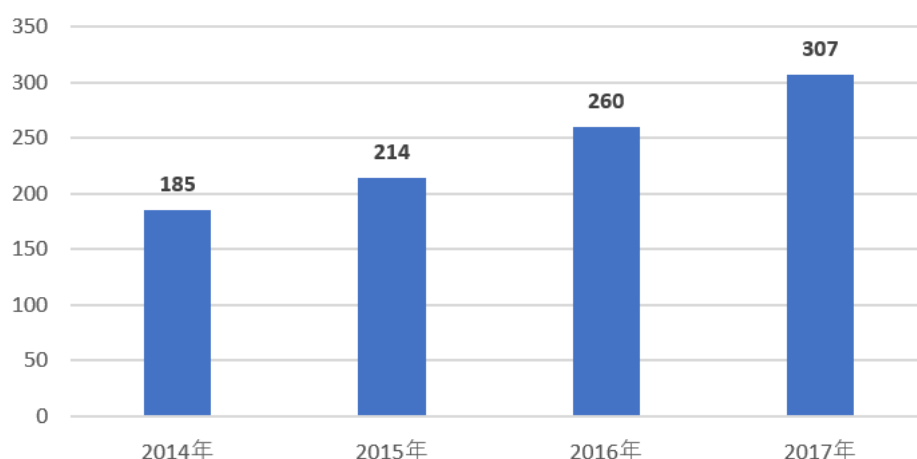


図 16 Operation Rebound 支給者推移

上記の図 16 のように、2014 年以降 Operation Rebound の支給者数が増加している。2017 年は、307 人へ助成金が支給された。

応募方法については、ホームページ上で web による申請になっている。

第4項 Catch A Rising Star

この項では、Paratriathlete Training も含めて記載する。Financial Statements には、Catch A Rising Star と Paratriathlete Training は別の個別プログラムとして記載されていたが、トラビス・リック氏にインタビューしたところ、Paratriathlete Training は Catch A Rising Star にある一つのプログラムであることがわかったため、同じ項にまとめることにした。

Catch A Rising Star は、合宿や練習会において、障害者がスポーツを通じて、個人として成長する機会の提供をするために作られたプログラムである。練習会では、障害者のフィットネス目標を設定し、それを達成するために必要な自信の養成を目的としている。

表 9 Catch A Rising Star 概要

内容	合宿や練習会の開催
対象者	誰でも参加可能
実施場所	サンディエゴを中心としたアメリカ全域
実施スポーツ種目	トライアスロン、水泳、陸上 サーフィン、自転車等
参加費	無料
実施実績（2017 年）	23 回
プロモーション方法	ホームページや SNS を利用
プログラムの始まった年	2010 年
CAF の今年度担当者数	スタッフ 4 人、ボランティア 500 人以上

Catch A Rising Star では、寄付額に応じて開催回数が決まるため、長期的なプランはないが、最近では練習会に対するスポンサーの獲得により、各種目の練習会が増加している。

練習会のコーチは、各種目専門の人材を確保するために、外部に委託している。CAF が練習会のコーチに求める人材としては、1. 専門性があること、2. 基礎・基本を伝えることができること、以上の 2 点が重要である。練習会におけるコーチの数は、練習会によって変化はあるが、だいたい 2 人程度で実施している。トレーニング内容については、CAF から指示することではなく、コーチに一任している。以下に、インタビューの詳細を記載する。

このプログラムにおける、長期的なプランは特にありません。基本的にその年の寄付額次第です。寄付額が多く集まり、スタッフもいれば、多く開催します。練習会を 28 回開催した年もありますし、10 回しか開催しない年もありまし

た。その寄付額に応じて、計画を立て、それぞれの練習会に、コーチの空き状況を確認してブッキングしていく、という流れです。

ただ、最近では固定の練習会も実施しています。例えば、Ossur（義肢会社）は 7つの陸上練習会をサポートしていて、毎年開催しています。契約は3年です。水泳は毎年変わっています。自転車の練習会は、スポンサーが見つかったので、ちょうど今年から開催しています。サーフィン練習会は去年から開催しています。

練習会のコーチに関しては、水泳コーチやトライアスロンコーチなど外部に委託しています。委託先は、個人的な人間関係で依頼することが多いです。CAF では、コーチだけは専門の人材が欲しいので、外部から起用しています。

練習会のコーチの数はそれぞれの練習会によって、人数は変わります。各コーチの空き状況によって、変化しますが、だいたい多くの種目の練習会でコーチ2人とボランティアで運営しています。合宿の時などは5人になります。レギュラー的に起用しているのは全ての練習会合わせて10～12人になります。

トレーニングの内容については、専門のコーチを雇うので、内容はコーチに任せています。CAF がトレーニングプログラムの内容まで指示することはありません。それぞれの練習会に参加している各アスリートのレベル次第なので、そのレベルに合わせてプログラムは作られていると思います。

CAF が練習会のコーチに求めることは、各種目についての専門性になります。また、スポーツに初めて挑戦するアスリートも多くいるため、基礎・基本を伝えることができることも重要です。他に、なにを基調にしているかは各コーチそれぞれになります。

私（トラビス・リック氏）だったら、やはりそのスポーツの基本的なアイディアを理解させることと、とにかく好きになって興味を持ってもらえるようにすることを意識しています。

第5項 Community Outreach

Community Outreach は、アスリートによる地域に対する啓発・教育プログラムであり、重要な情報や機会を提供するために作られたプログラムである。内容としては、障害者アスリートによる地域貢献活動のことで、病院や学校、各種組織での講演会等の活動である。CAF が主催することもあるが、主に各種団体への紹介業務であることがわかった。

表 10 Community Outreach 概要

内容	アスリートによる講演会等の地域貢献活動の紹介
実施場所	サンディエゴを中心としたアメリカ全域
プログラムの始まった年	不明
CAF の今年度担当者数	スタッフ1人

トラビス・リック氏は Community Outreach のような地域活動については、CAF が活動していくにあたって根底となる活動であると話していた

第6項 活動プログラムの成果

CAF は、現在までプログラムを実施することにより、多くの障害者アスリートを支援し、一流障害者アスリートになるまで支援をしてきた。その結果、CAF が資金提供を実施してきた多くの障害者アスリートがパラリンピックや国際大会への出場を果たしている。下記の図 17、18 は、夏季・冬季パラリンピックの年ごとにパラリンピック及び、国際大会に出場した選手が CAF に出場したことを自己申告してきた選手数の変遷になっている。

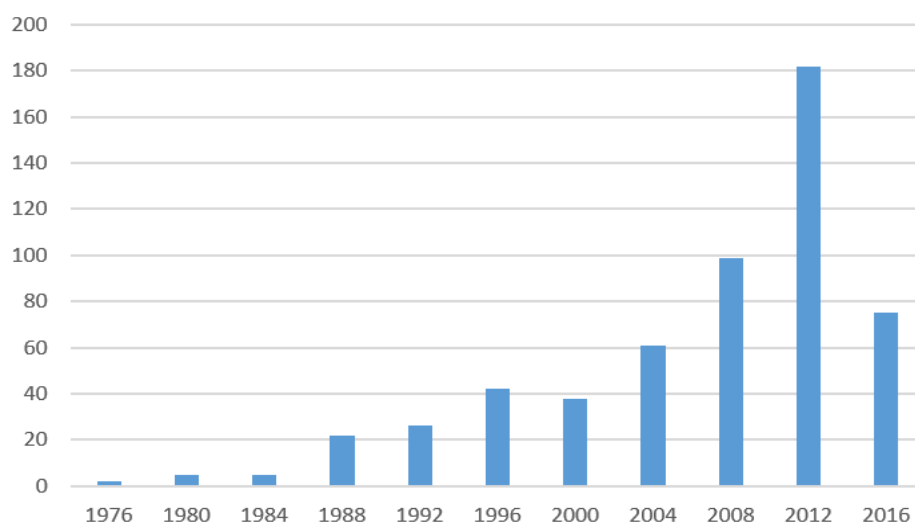


図 17 夏季パラリンピック、及び国際大会における CAF 支援アスリート出場者数
(自己申告ベース)

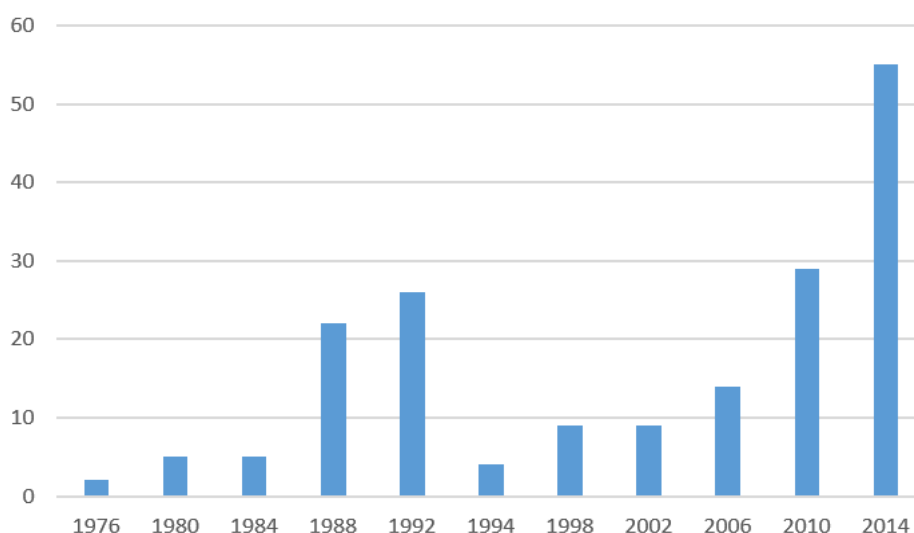


図 18 冬季パラリンピック、及び国際大会における CAF 支援アスリート出場者数
(自己申告ベース)

上記の2つの図の通り、夏季・冬季ともに出場者数が増加・減少を繰り返している時期もあるが、概ねCAF支援アスリートによるパラリンピック及び、国際大会の出場者数は増加傾向にある。CAFの支援した選手の出場者数の一番多い年は、夏季が2012年に182名、冬季が2014年に55名になっている。

また、CAFが正式に発表している例として、2つの例が挙げられる。1つは、2010年バンクーバー冬季パラリンピック大会において、CAFが支援した障害者アスリートがアメリカ選手団の45%を占めていたこと。2つめは、CAFが支援したアメリカ国内外87人の選手が2012年ロンドンパラリンピックに出場をしていることである。

第4節 CAFの今後の展開

第1項 CAFの現状における問題

現在、CAFにおける一番の問題は、全ての障害者アスリートの必要とする物や寄付金を渡すための資金集めである。CAFにとって、障害者アスリートと寄付金提供者両方に広報活動することは難しいが、国際的なニュース番組に紹介してもらうことにより、一般の人に知ってもらえることが重要になる。以下に、インタビューの詳細を記載する。

CAFは、これまでイベントを開催することによって、世界中の多くの人に知ってもらい、組織として大きくなることができました。そのため、障害者スポーツを広めること自体はなにも問題ではありませんでした。ただ、今も問題としていることは、全ての障害者アスリートの必要とする物や寄付金を集める事が難しいことです。例えば、国際的に競技している選手は、競技参加に10,000USドルが必要になり、国際大会で戦うための器具が必要になる。CAFがこのような要望を全員に全部満たすことはできません。障害者アスリート個人それぞれ全ての人のニーズに合わせて、100%必要な金額をあげることは難しいです。CAFも、CAFの事を広める努力を常にしているけれど、障害者アスリートと寄付金の提供者両方に、国際的に大きく知ってもらう広報をするのは簡単ではないです。ちょうど最近、AppleとFox NewsでCAFのことを紹介してもらうことができました。2分間のビデオ放映だったけど、これは国際的な広報で、一般の人たちに知ってもらう機会だから、CAFにとってはすごいことです。

CAFのような組織にとって、一番大切なことはより多くの資金集めになります。資金があれば、障害者アスリートへの助成金やクリニックにつなげることができます。

第2項 CAFの新しい取組み

CAFは現在、資金調達拡大のため、サンフランシスコとニューヨークで社員を一人ずつ採用しており、地元の寄付金提供者や障害者アスリートとの関係やつながりを広げている。その結果、来年サンフランシスコで初めてのGalaが開催される。

また、ソーシャルメディアを活用して、提供者の情報を戦略的に把握していく取り組みをはじめている。下記の表11のようにCAFはソーシャルメディアを積極的に活用している。CAFは、ソーシャルメディアを有効に分析して活用していくことにより、今後成長していくことができると考えている。

他に、San Diego Triathlon Challengeなどのイベントについても、今後新しく注目される方法を考えている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

表 11 CAF のソーシャルメディアの活用状況 (2017 年 11 月 18 日現在)

	フォロー数	いいね！数	投稿写真数	ツイート数	合計再生回数
Facebook	48900	50382	1714	—	—
Twitter	13215	7447	—	6561	—
Instagram	21000	—	1104	—	—
Flicker	231	—	14743	—	—
You tube	1026	—	—	—	439592

CAF では、毎年新しいアイディアを考えようと努めています。現在は、サンフランシスコエリア、ニューヨークエリアに 1 人ずつ社員を採用して、資金調達拡大に努めています。各エリアでプログラムや練習会などを実施することにより、障害者アスリートの活動の場の拡大につながるからです。

現在、各エリアにいる 2 人の社員には、地元の寄付金提供者や障害者アスリートとの関係やつながりを広げることに努めてもらっています。この 2 人は事務所を持たず、自分の家で作業をしてくれています。このような努力が実ることにより、資金調達イベントにつながり、来年はサンフランシスコ Gala を初めて開催できることになりました。

また、提供者の情報を細かく戦略的に把握して利用していくことも考えています。現在、CAF はソーシャルメディアを全部利用しており、Facebook をメインにして、You tube ではビデオ、写真を中心に紹介しています。CAF のマーケティングチームが各ソーシャルメディアの閲覧数のアクセス統計をとっています。Facebook や Instagram は統計を見る機能があるし、他のソーシャルメディアについても、マーケティングチームが持っている機能を使って、アクセス数や投稿についての反響を把握しています。アクセスは Facebook が一番多いです。他にも今後さらに分析をしていくことにより、誰がどれだけ寄付していて、誰と繋がっているのかなどを知ることができます。このような情報を有効に分析して活用していく事が、成長につながるはずです。

あとは、San Diego Triathlon Challenge などのイベントを、これまでずっと同じ事をやっているの、なにか新しい方法で注目を得ることについても考えていく必要あると思っています。

第 3 項 CAF の新しいプログラム

CAF は、来年ハイスクールの体育に障害者スポーツを取り入れるプログラムを考えている。現在、アメリカでも障害者がスポーツの機会を平等に得ることができるようにしたいという風潮はあるが、いまだに障害者がスポーツをいつでもできる環境を整えることができていない。そのため、CAF ではハイスクールの体育で障害者スポーツを取り入れてもらい、多くの人の意識をさらに強めたい狙いがある。以下に、インタビューの詳細を記載する。

来年に新しいプログラムとして、障害者スポーツをハイスクールの体育で実施するプログラムを考えています。

現在、障害者スポーツをサポートする風潮は大きくなってきています。障害者にも平等にスポーツをする機会を得ることができるようにという風潮は強くなっています。でも、まだ実際に障害を持った子ども達がいつでもスポーツができる環境を確実に保証されているところまでは進んでいません。そのため、CAF としては、その意識をさらに多くの人に深く広めるための活動に努めたいのです。だからこそ、ハイスクールスポーツは、CAF にとって最重要事項の一つにあると思っています。まずは、そのための寄付金を集めることが大事になります。

第4項 CAF と他組織団体のコラボレーション

これまで、CAF は他組織団体とは関係を持っていない。CAF はこれまで多くの支援をしているが、支援先は組織団体ではなく、直接個人に対しての資金提供という世界でもおそらく一つしかない団体のため、これまでは他組織団体との関係を持つ必要はなかった。ただ、最近の10年間は自然な流れで他組織団体とアイディアを出し始めてきており、今後一緒にCAFの特性を生かしたコラボレーションをしていくことで大きなサポートができると考えている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

現在、CAF は他組織団体とは関係を持っていません。なぜなら、CAF はトライアスロンでの活動からスタートして、ロケーションもサンディエゴから始まり、今少しずつ活動地域を広げているところだからです。今後、他組織団体との関係を広げていく事は必要になってくると考えています。今、活動していく中で色々な人たちと仕事をするようになりました。Dolphin Sports USA、IPCの人たち、USA Triathlon committee、ITU (International triathlon Union)、US Paralympicの人たちとも仕事をしています。これまでお互いの存在は知っていても、Paralympicの人たちをCAFは多くサポートしてきていますが、CAF 独自で活動をしてきた組織ですし、寄付も組織団体に送るのではなく、アスリート個人個人に直接送っているの、組織団体との関係は持ってきていないのです。

例えば、CAF は2010年冬季バンクーバーパラリンピックの際には、45%のUS チーム選手に、CAF から寄付金を提供していました。ただ、これは組織団体へ送ったのではなく、個人宛でした。組織団体に送ると、そのお金が何に使われるかわからない。実際に個人に必要なお金が渡らないこともあるからです。CAF に寄付する人たちも、CAF なら、直接確実にアスリート個人に必要な額が渡ると確信が持てます。

このような理由から、今までは特に、組織団体と関係を持つという考えはありませんでした。アスリート個人に寄付する事を目的としているので、他の組織団体との関係に励んでも、意味がなかったからです。でも、CAF も成長してきたため、今後は一緒にコラボレートして働くことで、大きなサポートができると感じてきています。もちろん、前提としてCAFの今までのやり方をそのまま続けていき、なにか新しい方法があればいいと思っています。過去のCAFの活動や実績を他の組織団体やIPCなどが知ってくれているので、CAFの特性を生かしてコラボレートすることで、さらに大きなサポートになるでしょう。今、ちょうど変化し始めているところです。例えば、最近10年の間に、自然に他の組織団体の人たちと関係を持つようになり、長い時間を経た今、自然にコラボレーションというアイディアを話し始めるようになってきています。

CAFのような団体は、おそらく世界でもここ1つしかありません。特定のスポーツや特定の地域に対してサポートする団体は多くあります。CAFの様に、スポーツや体を動かすアクティビティ全般に、国籍を関係なく、どんな年齢にも、どんな障害にも支援を実施している団体はありません。しかも、直接個人に寄付することを目的として、これだけ大きなスケールで活動しているのはCAFだけです。

第5項 CAF から世界へ

CAFのような団体は世界に必要ではあるものの、運営が難しく、2007年にはフロリダに支店を持っていたが、1年持たずに閉めたケースもある。

現在のCAFと同じような運営をするためには、毎年最低1 million dollarの寄付金をコンスタントに集める必要がある。

また、世界の障害者アスリートからはスポーツ器具のサポート依頼が多いため、CAF は現在世界各国の障害者スポーツ器具の販売代理店を探している。以下に、インタビューの詳細を記載する。

基本的に、世界各国に CAF のような団体はあるべきだと思う。世界にも多くのサポートを必要としている障害者がいると思います。

ただ、CAF のような団体の運営は難しい部分もあります。2007 年フロリダに CAF の支店がありましたが、その時は寄付金が集まらなくて、CAF サンディエゴからの出費が増えてしまったので、結果的に 1 年持たないで閉めることになりました。フロリダの CAF 支店を運営していた人たちは、大きな企業のトップにいる人たちでした。おそらく、資金調達はもっと簡単に出来るものだと思っていたと思います。しかし、彼らが期待したようには進まなかったのです。だから、もしどこかで支店を大きく作るとしたら、毎年最低 1 million dollar の寄付金をコンスタントに集める必要があると思っています。

世界では多くの障害者がスポーツをするための器具を必要としています。特に、世界から CAF に支援の要望が多いスポーツ器具は、競技用の義足になります。アメリカでは保険で購入することが可能ですが、他国では保険がないからだと思います。そのため、現在 CAF で探しているのは、アジアやヨーロッパなどにある障害者スポーツ器具の代理店です。今海外に器具を送るのが難しい理由は、送料の方が高いからです。CAF が協力してもらっている障害者スポーツ器具の代理店はアメリカにしかありません。今後、CAF としては、海外の障害者スポーツ器具の代理店との関係を築いていきたいと思っています。

第 6 項 CAF の今後の目標

現在、CAF の目標は現状の 2 倍の資金調達額である 20 million dollar を集めることである。2018 年、25 周年を迎える CAF は、サンフランシスコとニューヨークでの活動が成果をあげることに今後一番期待している。以下に、インタビューの詳細を記載する。

現在、CAF の目標は今の資金調達額の 2 倍である 20 million dollar の組織にすることが目標になっています。創立時は、誰も 10 million を達成するとは思っていませんでした。このことは十分可能だと思っています。最初は、1 million dollar に達成することも本当に大変だった。これまでは、モデル作りや将来のプランなどを考える感覚はなく、その場その場でとにかく次の年へ進めていくことで精いっぱいでしたが、現在ではしっかりと 10 年先のプランを見据えるようになってきました。

来年、CAF は 25 周年を迎えるに当たって、大きなイベントを考えています。来年を契機にして、さらに次の 10 年の飛躍をしていけるような計画をしています。

現在、サンフランシスコとニューヨークで働いているメンバーが情報を集め、基盤作りをしてくれています。今一番期待しているのは、この地道な活動が実ることです。この活動が実れば、現地に新しいオフィスを作り、新しいスタッフも増やすことができるので、CAF の成長を期待できるからです。

第 5 節 CAF 創設者からのメッセージ

本節では、CAF の創設者であるボブ・バビット氏に対するインタビュー結果を記述する。ボブ・バビット氏は、CAF の創設者であり、現在も役員として CAF に在籍している。

また、ボブ・バビット氏は様々なアスリートを紹介するラジオ番組「Babbittville Radio」の司会者でもある。CAF の他にも、2014 年にはバビット・メディアグループを創設している。

第1項 ボブ・バビット氏の CAF におけるこれまでの活動

ボブ・バビット氏は、CAF において、企画やラジオ番組を通して、障害者アスリートの理解や意識を深めることにより、障害を持った人たちとの垣根をなくすことを目的として活動している。

ボブ・バビット氏のインタビューでは障害があっても障害がなくても、同じアスリートとしてインタビューを実施しており、障害についての話ではなく、レースについての戦略についてなどに迫った内容にしている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

1997 年に “The competitor group ” を創設しました。その時に、私は障害者トライアスリートの Jim MacLaren をサポートしていました。その後、Jim MacLaren が 2 度目の事故にあって、1993 年に、彼にバンを買う為にトライアスロンイベントを開いたことが CAF の始まりです。

当初は、CAF では、Muddy body という企画をしていて、2 人でランとマウンテンバイクを順番にやって、泥沼の中で壁登ったりする企画をしていました。他にも、1990 年から私はラジオ放送をしていて、毎週 3～4 人の障害者アスリートをインタビューしていますが、それも CAF の提供で活動しています。これまで、500 人くらいの障害者アスリートをインタビューして、紹介してきました。このような企画やラジオで障害者アスリートへの理解や意識を深めていくことが、私の基本的な目的です。一般の人たちって、障害者アスリートや障害のある人を目の前にすると、どうしていいかわからなかったりしませんか。このような障害を持った人との垣根をなくしていきたいです。でも、そんなことより、障害者アスリートは本当のアスリートなんです。アスリートは誰でも強くなって勝利したいのです。このことから、私のインタビューでは、どうして障害者になったかとかなんかより、レース中の戦略とかに迫っています。こういうインタビューをしていくことによって、多くの人たちに障害があっても障害がなくても、同じアスリートなんだと感じてもらえることで、垣根をなくせと思っています。

第2項 ボブ・バビット氏の印象的な障害者アスリートストーリー

ボブ・バビット氏が伝えたい障害者アスリートのストーリーは、障害者の概念が飛んでしまうようなゲームチェンジャー(既定概念を覆すような出来事)ストーリーである。

障害者アスリートであるからの話ではなく、「勝利したい!」という誰もが共感する印象的なストーリーを大切に考えている。以下に、インタビューの詳細を記載する。

2 人の素晴らしい障害者アスリートがいました。一人は、David Bailey。彼は、モーターサイクルの 世界で一番だった人で、大きな金額を稼いでいた。今のメジャーリーガーやバスケット選手以上に稼いでいたんです。ただ、彼は練習中に事故にあって、麻痺の障害者になった。それから、もう一人 Carlos Moleda は、軍隊での任務中に障害者になった。

その後、2 人とも障害者アスリートになり、ハワイのアイアンマンレースで戦うライバル同士になりました。それで、そのストーリーに私は注目しました。最初の 2 年は Carlos が勝ちました。3 年目になり、私はこの 2 人の戦いは接戦に

なると思っていたけど、Carlos は「そう思う？」って感じで自信満々でした。

3年目のレースでは、Carlos が Daivid をスイムの後に追い抜いて、Carlos がその時は逃げ切った。それから、バイクでの二人は本当にずっと競り合っていました。そして、最後は、ついに Daivid が勝った。

Daivid は、アイアンマンの体作りのために、彼は信じられないくらいの距離をハンドサイクリングやっていました。途中で疲れすぎて、元の場所に戻れないかと思うくらいに、自分を追い込んでいました。

レース終了後、私は Daivid と奥さんと呼んで、おめでとくと伝えました。そのあと、疲れているだろうからマッサージに行く？って聞いたら Carlos を待つよって言うんだ。そこに Carlos が来て、David は Carlos に何か耳打ちしてから去って行った。

Carlos に、Daivid はなんて言ったのかを聞いたら、「ありがとう」と伝えられたと教えてくれました。「僕をここまで追い込んで、限界を超えさせてくれてありがとう。」と伝えられたと言ってました。これは、すごいアスリートの心だと思いませんか。車椅子の選手だからとかいうような、つまらない話じゃないです。こういう気持ちは、障害があるとかないとか関係なく誰でも共感します。車椅子という概念は飛んでしまいます。「勝利したい！」そういうすごい簡単なことなんです。Jim MacLaren も義足で、一般のアスリートに混じって、アイアンマンでトップ 20 になりました。これは、ゲームチェンジャー(既定概念を覆すような出来事)だよ。僕は障害者アスリートのゲームチェンジャーストーリーをたくさん伝えたいと思っています。

第3項 CAF の海外選手サポートストーリー

現在、海外の助成金支援は、旅費やトレーニング費のサポートをメインにしているが、Loren Parker 選手のように CAF のイベントに参加したことにより、多くの選手と触れ合い、またスポーツをするきっかけになるようなインスピレーションを与えることこそが、CAF が支援をするにあたっての大きなキーポイントになる。以下に、インタビューの詳細を記載する。

現在、海外への助成金支援は、旅費やトレーニング費のサポートがメインになっています。海外の選手へサポートした例を紹介します。

Loren Parker というアジアにおけるトップトライアスリートの女の子がいました。彼女はハワイで開催されるトライアスロンのワールドチャンピオンシップで、年齢区分のグループで2位になる選手でした。この活躍から、彼女はトライアスロンでプロになりましたが、練習中にタイヤが両方パンクしたことにより、ガードレールにぶつかり、麻痺の障害者になりました。そのようなことから、彼女を CAF の助成金で、San Diego Triathlon Challenge に招待しました。San Diego Triathlon Challenge でアイアンマンをハンドバイクでゴールしてしまうような一流の障害者アスリートなどたくさんの人たちに出会うことによって、彼女は大きな刺激を受けました。そして、このイベントをきっかけに彼女は水泳の練習を始め、オープンウォーターにも挑戦していて、車いすレーサーの練習も始めました。

CAF は、このようなインスピレーションがキーポイントだと考えています。麻痺した体では、今までの体の感覚とは違うことが多いので、CAF で効率的なトレーニングをできるようにサポートしています。

第4項 ボブ・バビット氏が考えるロンドンパラリンピックの成功

ボブ・バビット氏の提言として、2020 東京パラリンピックの成功のためには、ロンド

ンパラリンピックの成功を参考にして、東京パラリンピックで注目が期待される日本の障害者アスリートの情報を少しでも多く紹介していくことが必要であると提言している。以下に、インタビューの詳細を記載する。

2020 の東京パラリンピックで、日本でパラリンピックスポーツも多く人から注目されると思います。でも、2020 東京パラリンピックが終わってしまえば、その注目はなくなってしまう可能性がある。それを心配に思う気持ちはよくわかります。

でも、ロンドンパラリンピックは一つのいい例です。ロンドンオリンピック・パラリンピックの時は、パラリンピック選手であるオスカー・ピストリウス選手がオリンピックに出場したことによって、85,000 人の観客がオスカー・ピストリウス選手の出場するパラリンピックを見に行くことによって、他のパラリンピック選手にも注目をするようになった。メディアはこのようなパラリンピックムーブメントからパラリンピックを大々的に放映することになった。パラリンピックを見た人たちの心をつかんだんだ。そのおかげで、ロンドンではオリンピック・パラリンピック後も、障害者アスリートに注目が続くようになった。

東京に必要なことはロンドンと同じようなことです。日本は自国開催のパラリンピックだから、今であれば自国の選手情報は多く流すはずで。これから、注目が期待される日本の障害者アスリートに目を向けて、多くの情報を紹介することができれば、2020 東京パラリンピック以降も注目されるはずで。イギリスでは、多くの選手が活躍し、メダルを自国に持ち帰った英雄として今も注目されています。ロンドンで大活躍したした障害者アスリートは、オリンピックアスリートと同じレベルで、今もなおイギリスで注目されています。

第5項 Emmanuel's gift

Emmanuel's gift は、ガーナ人の若い男性が CAF の支援により提供した自転車でガーナ一周をする映画である。この映画は、ボブ・バビット氏が映画プロデューサーの友人に CAF が支援した Emmanuel の話をしたことから始まった。そして、この映画が賞を受賞し、国営放送でも流されたことで、国内外の多くのトップアスリートが CAF のことを知ることになった。このような出来事は計画的にできるのではなく、情熱をもって行動することにより誰でにでも起こりえるとボブ・バビット氏は話していた。以下に、インタビューの詳細を記載する。

Jim MacLaren に関しては、「Emmanuel's gift」という映画を作りました。私の友人が作りました。Jim MacLaren とガーナ出身の片足がない Emmanuel という若い男性が登場します。ストーリーとしては、Emmanuel がガーナを一周するのに自転車がが必要なため、CAF が支援で自転車をガーナに送り、その自転車で Emmanuel がガーナをクロスカンントリーする話です。この映画を作成したのは、アイアンマンと一緒に出場していた私の友人で、映画プロデューサーの人です。私から友人にこの話を一つのビデオにできないかをもちかけました。映画化になるまでは、考えてなかったけど。結果的に Oprah Winfrey がナレーションをしてくれて、2005 年に映画化されました。そして、この映画について、ESPN が、the Arthur Ashe Courage Award を、Jim MacLaren と Emmanuel に送りました。これが、国営放送でも流れました。今も You Tube で 10 分の動画を見ることができます。国内外の多くのトップアスリートたちがこの映画を見ることによって、大きな反響があり、CAF にとっても大きな転機になりました。

このストーリーが映画化されたのは、本当に運がよかったんだと思います。アイアンマンと一緒にやっていた時に、

Emmy 賞を受賞することになった別のストーリーを私が友達に伝えていました。そのことで、私のアイディアを信頼してくれた部分もあると思います。その友達が、映画作成を始めたので、Emmanuel が自転車でガーナを一周するという話を伝えました。友達は、ガーナまで Emmanuel がガーナ一周を自転車でするところを撮影しに行き、Emmanuel がアメリカで手術を受けた時も撮影をしていました。この映画に感激した Robin Williams が、Emmanuel に Most Inspirational Athlete Award を送りました。このようなことは、計画して出来ることじゃなくて、流れの中で起きたんだ。だから、このようなことは誰にだって起こる可能性があります。情熱を持って行動すれば、応援が現れてきます。

第6項 ボブ・バビット氏が考えるビデオ作成とプロモーション活動

CAF では、国が注目するアスリートに注目して、CAF 出身のスターとなる障害者アスリートを輩出してきた。

CAF がビデオ作成することにより、障害者アスリートにもいいイメージを得られるメリットがあり、メディアに対してビデオによって伝えたいメッセージを伝えられるとボブ・バビット氏は話した。

CAF がビデオ作成の時にキーワードにしていることは、「passion」と「emotion」の2つである。

一流障害者アスリートと有名人とのパートナー関係などのストーリーは、メディア関連の人たちに取り扱ってもらうことにより、CAF と一流障害者アスリート双方にとって重要なビデオストーリーになるのである。以下に、インタビューの詳細を記載する。

CAF の設立当初において私たちは、イベントの時などに、人を集めるのにハリウッドスターがいたらいいのに、ハリウッドスターが CAF には必要だ、と言っていたことがありました。しかし、今 CAF 出身の多くの障害者アスリートがスターにいつのまにかなっていた。多くの素晴らしいアスリートがいるけれど、注目を浴びるには、国が注目する人材が必要です。日本を代表するような障害者アスリートは誰なのか。その人たちのストーリーを重ねていけば、注目が広がる。

例えば、CAF にある写真や動画は、全て CAF が追ってきた一流障害者アスリートのストーリーです。目を凝らして色々なストーリー、エピソードを記録していった、ビデオを作成して、そのビデオを持って、メディアに働きかけます。障害者アスリートも、自分たちのビデオを作成する必要なく、CAF の記録を利用できるし、いいイメージも得られるから障害者アスリートも協力してくれます。

CAF と一流障害者アスリート両方で短いビデオ動画を作成して持ち歩けば、長い説明もいらず、実際のイメージ動画で十分メッセージを伝えられる。

CAF がビデオ作成の時に大切にしているキーワードは「passion」と「emotion」の2つになります。

私たちは何年も Rudy (CAF 出身のパラリンピック競泳金メダリスト) とは色々なことをやっていて、テレビ出演させたりしてきている。番組の出演もしましたし、Robin Williams と一緒に活動していました。Robin Williams は最大の CAF サポートであり、Rudy のパートナーでした。Rudy が泳いで、Robin が自転車をやって、一緒に Iron man も完走していました。このようなストーリーは CAF にとっても重要なビデオストーリーになりました。

そして、メディア関連の人で、大学を卒業したばかりの人たちの名前を売りたいという人たちに働きかければ、無償で引き受けてくれたりします。このような話題は、彼らの名前を売るにもいいチャンスになるからです。

第7項 ボブ・バビット氏からの筆者へのメッセージ

1) ビデオ作成について

ビデオ作成では、競技者になるまでの具体的なストーリーを作成した後、スポーツに着目したストーリーを作成することが大切になるとボブ・バビット氏は提言している。

ボブ・バビット氏からのアドバイスとして、逆境に立ち向かうストーリーや挑戦についてのストーリーをクローズアップし、話題性があり、人々に喚起を与えるストーリーとしてまとめていくことが必要であるとしている。

上記のような軸となるストーリーを軸に、自分のスポーツについての難しい話をするのではなく、ライバル同士のストーリーなどメディアが喜ぶストーリーを提供することで、多くの人に自然に興味を持ってもらうことができる可能性が大きくなるとボブ・バビット氏は話していた。以下に、インタビューの詳細を記載する。

例えば、あなた（筆者）の場合、大人になるまでどんな困難があったか、学校で馬鹿にされたことはあるか、コーチを探すのは簡単だったか、どんなチャレンジがあったかとかをストーリーにしたらいと思います。

その後、スポーツに着目していったらいいと思います。スポーツは人にパワーや力を与えます。

他に同様なことをやっている人がいるか。パラリンピックで2種目挑戦することは、どんなエピソードだったか。現在の寄付金の現状はどうか。このような話をまとめることによって、立派なストーリーになります。ストーリーの力は本当に影響力があります。スポーツが1人1人に与えることができるパワーはすごいです。例えば、体育の授業であなたにはできないだろうと言われた話や体育の授業に端で待たされた話とかも重要になると思います。そこから、パラリンピック出場に至るまでの軌跡のストーリーがあれば、多くの人に感銘を与えます。

そのため、あなたが今日本でやることは、このような話題性のあるストーリー、人々を喚起するストーリーを広めることになると思います。

スポーツの内容で言えば、スポーツの内容を紹介して、難しい話をするのではなく、ライバル同士のわかりやすいストーリーなどを紹介することによって、メディアもみんな興味を示すと思います。メディアが欲しがっているストーリーを理解することが大切になります。

例えば、ライバル同士のストーリーであれば、普段仲良くしていても、メディアの前では「あいつに絶対勝ちたい！」とかいう話することが話題を呼びます。みんなが楽しめるライバル同士のストーリーを作ってください。そうすれば、みんな自然に興味を持つと思います。

そして、あなた（筆者）が伝えるべき次のメッセージは、次の世代が続くように、多くの障害者アスリートをサポートしたい、と伝えることです。このような感情は、ユニバーサル（世界共通）なはずだから、人の心に届くはずで

2) 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、今こそメディアに働きかけ動くときであるとボブ・バビット氏は提言している。

東京パラリンピックに向けたボブ・バビット氏のアドバイスとして、国民の心に訴えかけるような驚くような勝利のエピソードを多く記録していくことが重要だとボブ・バビット氏は力強く話した。

そして、最初は具体的に支援が必要な人数やスポーツ器具についての数字を示し、小

さな支援から始めていくことが大切になると話していた。以下に、インタビューの詳細を記載する。

これから、東京オリンピック・パラリンピックの影響で寄付金ももっと多くなると思います。もう来年は、2018 年になる。東京パラリンピックの選手選考は、2019 年に始まります。だからこそ、今が動き始める時だと思います。テレビ局とか、レポーター、新聞局、ラジオ局をリストアップして、メディアに働きかけるべきです。

私（ボブ・バビット氏）のアドバイスとしては、君（筆者）の挑戦は、東京パラリンピックまでの障害者スポーツにスポットライトが当たっている期間中に、国民の心に訴えかける驚くような勝利のエピソードをできるだけ多く記録しておくことだと思います。メディアは、自国の勝者に注目したいと思っています。勝者となるアスリートのいい写真・動画を収めといて、メディアに働きかけるのです。一度注目されることができれば、翌年や次のパラリンピックでも、「あの人の今年の調子はどうだ」と話題になります。それに、自国開催の時は、一般的な傾向として開催国の選手はいい結果を残しやすいです。だから、いいチャンスだと思います。メディアや多くの人々は、みんな自国の勝利ストーリーが好きなので、勝利ストーリーがキーになると思います。もし、メダルに届きそうでなくても、チームメンバーの具体的なエピソードや怪我から復活していく話をするのができたら、人々の興味を引くことができると思います。

最初に寄付金を集めるにあたっての、私のアドバイスとしては、なるべく小さな額で始めることです。なぜなら、いきなり 50,000 人分の寄付が必要だと言われても、周りの人はびっくりして、協力してくれなくなってしまうからです。そして、できるだけ具体的に、何人レースに出るために何台の器具、どれだけの旅費費用が必要で、トレーニング代・コーチ代がいくら必要だということを説明して、その必要額を割り出して、数字で訴えていく必要があります。2020 年に向けて、国がスポーツに対して熱心にやっている今、具体的に数を示すことが大切だと思います。これだけの物をこれだけの数、その為に費用がいくらあれば、何人の活動を手助けできるんだ、ということ具体的に示すことが大切です。寄付金を提供者から募るために、色々な企画をするのは大変だけど、最後には報われると思います。結果として、選手をパラリンピックに送ることができたり、新しい障害者アスリートが初めてレースに出場したり、信じられないような活躍をする多くの瞬間を見ることができるのは本当に嬉しいことなんです。

第 6 節 CAF の「理念」「資金」「普及」「勝利」

本節では、本章における前節までのインタビュー結果を平田（2017）⁶が提唱するトリプルミッション「理念」「資金」「普及」「勝利」の視点で整理する。

第 1 項 理念

トラビス・リック氏のインタビュー結果から、CAF は「ただより多くの障害者アスリートが活動的になること」という理念のもと活動をしていることがわかった（第 3 章第 1 節、第 1 項）。

また、CAF の創設者であるボブ・バビット氏のインタビューにも Loren Parker 選手などの海外選手も含めた障害者アスリートを支援してきたサポートストーリーが語られており、CAF の理念を改めて再認識することができた（第 3 章第 5 節）。

この理念は、CAF の活動の大きな柱になっており、活動内容にも大きく反映されている。2001 年に発生した同時多発テロにおいても、CAF が負傷した人々を助けたいと新し

いプログラムをはじめたことにも、CAFの中で理念が浸透していることが表れている(第3章第2節、第3項)。

第2項 勝利

CAFは、活動プログラムの成果として、多くの障害者アスリートをパラリンピック・国際大会に輩出してきており、2012年にはロンドンパラリンピック大会に87人出場し、182人の選手が国際大会に出場するまでになっている。(第3章第3節、第6項)

また、CAFの支援した選手には、多くのゲームチェンジャーストーリーを持つ選手を輩出しており、その代表例がガーナ1周を自転車で達成したEmmanuelである(第3章第5節、第5項)。他にも、ボブ・バビット氏は、事故で障害を持った2人のアイアンマンにおける壮絶なストーリーや事故した女性の復活劇などのゲームチェンジャーストーリーを紹介している(第3章第5節、第2-3項)。

第3項 資金

CAFの2015年度の活動収益は約10,700,000USドルにものぼるが、1994年の設立時は49000USドルであった。(第3章第2節、第3項)

CAFの活動収益の獲得には、第3章第2節、第1項の通り、スポーツイベントとGalaが資金獲得に有効な手立てとなっており、CAFの活動収益の多くを占めている。

また、スポンサー獲得については、第3章第2節、第2項の通り、ビデオによるプレゼンテーションを有効に活用している。これは、CAFの創設者であるボブ・バビット氏も第3章第5節、第6項でビデオ作成における重要なポイントとして「passion」と「emotion」をあげており、第3章第5節、第7項では2020東京パラリンピックに向けて、障害者スポーツを普及していくためにもビデオによるプロモーションをしていくべきだと示唆している。

さらに、CAFはCharity Navigatorにおいて、説明責任と事業の透明性の評価スコアにおいて100点満点をとることにより、寄付者から高い信頼を得ることに成功している(第3章第2節、第2項)。

近年ではCAFの活動拠点であるサンディエゴでの資金調達のみでなく、より多くの資金の獲得を考えており、サンフランシスコやニューヨークでの資金調達活動に力を入れている(第3章第4節、第2項)。

第4項 普及

CAFの活動プログラムにより、2017年は3,700,000USドルの資金が42ヵ国、97種目、2448人に支給されており、アメリカ国内外の多くの障害者アスリートが支援されている。(第3章第3節、第1項)

また、第3章第3節、第2項・第4項の通り、様々なイベントによって、スポーツの

機会を提供しており、2017 年には 200 人以上の障害者アスリートが参加したトライアスロン大会や 23 回もの練習会を参加費無料で実施している。

ボブ・バビット氏はインタビュー（第 3 章第 5 節、第 7 項）において、日本でも 2020 東京パラリンピックという大きな機会で、このような活動を実施すべきだと考えており、最初は具体的に支援が必要な人数やスポーツ器具についての数字を示し、小さな支援から始めていくことが大切であると提言している。

第4章 考察

第1節 CAFの揺るがない基本理念

本研究では、CAFの資金調達方法及び、障害者スポーツの普及・育成プログラムを明らかにすることを目的として、インタビュー調査を実施した。

CAFは、当初より「より多くの障害者アスリートが活動的になること」を掲げ、今日まで活動している。その結果、社会から共感され、資金提供者、スポンサー、アスリート、ボランティアなどの協力を得られていると考えられる。CAFの役員が変わらないことも、基本理念が外れない重要な要因になっているのではないだろうか。

第2節 トリプルミッションの好循環

CAFの発展の経過には、勝利・資金・普及という平田（2017）が提唱するトリプルミッションの好循環が生まれていると言える。

本節では、インタビュー結果から明らかになったCAFの活動をトリプルミッションの枠組み「勝利」「資金」「普及」の3点から考察する。CAFのトリプルミッションの枠組み概要は下記の図17の通りである。

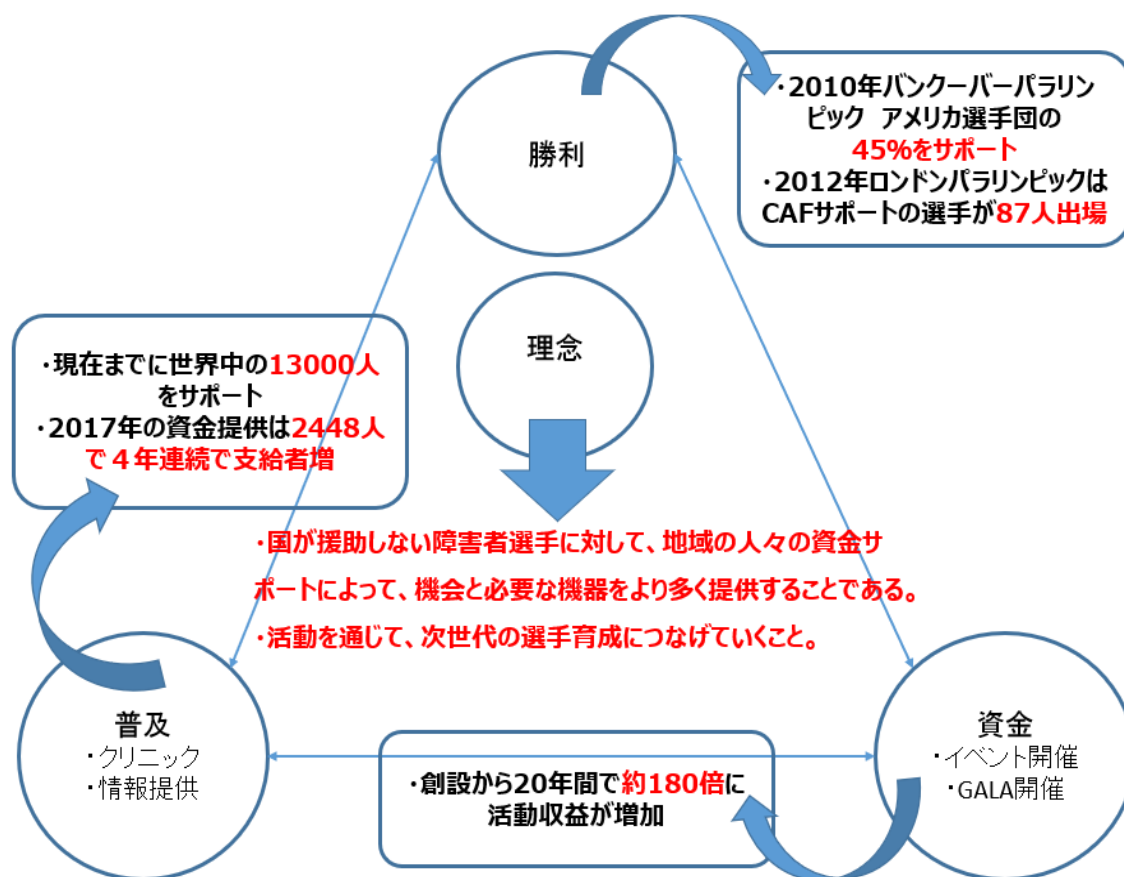


図 19 CAFのトリプルミッションの枠組み

第1項 CAFの活動プログラムによる選手強化への貢献

前述した通り、CAFは支援した障害者アスリートをロンドンパラリンピックに87選手を出場させている。1ヶ国に相当するような選手たちを民間団体が活動プログラムを実施することによって、出場させていることは世界の人々へ大きなインパクトを与えている。また、CAFの支援した障害者アスリートがパラリンピック・国際大会に出場した数も時期によっては減少している時期があるものの、概ね増加傾向にあり、2012年には182人の障害者アスリートを国際大会の舞台に押し上げている。

CAFは、基本的に経済的に恵まれない障害者や子どもたちを中心に支援を実施しており、パラリンピック選手の強化に対しては、積極的に資金を提供していない。それにも関わらず、支援した障害者アスリートによるパラリンピックへの出場者を多く輩出している。このことは、CAFの支援が、強化にもつながり、パラリンピックや国際大会出場という強化面においても成果を出している。経済的に恵まれない障害者や子どもたちであっても、活動資金を得て、スポーツの機会を得ることができれば、普及のみならず、強化にもつながっていくことを示唆していると考ええる。

また、パラリンピックのみならず、CAFが支援したアスリートから多くのゲームチェンジャー(既定概念を覆すような出来事)を輩出している。代表例として、CAF最初の支援者であるJim MacLaren氏との交流を描き、映画にもなった片足のガーナ人障害者アスリートEmmanuelが挙げられる。Emmanuelは、CAFから自転車の支援を受けて、自転車でのガーナ一周を達成したのである。Emmanuelの活躍を映画化した「Emmanuel's gift」は、2005年のESPY Awardsにてthe Arthur Ashe Courage Awardを受賞し、世界の人たちから称賛された。他にも、ボブ・バビット氏がインタビューで話したように、多くの障害者アスリートが、CAFから支援を受けることにより、ゲームチェンジャーに変わっていくストーリーがいくつもあるのである。CAFから支援された障害者アスリートは、スポーツを通して多方面で活躍している。このような活躍が、結果的に世界の多くの人たちにCAFの支援を認識させることになり、CAFへの支援やCAFからの支援が広がる好循環を生み出している。

第2項 CAFの資金調達成功要因

資金面においても、1994年の設立時の49000ドルから、20年間で約180倍にまで拡大させている。

CAFが、創設から2017年まで世界の障害者13000人以上に資金提供を実施し、多くの障害者アスリートにスポーツの機会を提供することができたのは、資金調達の成功が大きく関係している。資金である寄付金はイベント収入とスポンサー収入の2つの資金調達方法がある。

CAFは、寄付金提供者や障害者アスリートに対する広報活動をビデオプロモーションにて実施することで、多くの人にCAFが認知され、支援の輪を大きくしていくことができたと考えられる。特に、一流障害者アスリートのビデオは世界の人々に影響を与えて

おり、一流障害者のストーリーを「passion」と「emotion」の2つのキーワードでビデオ作成をすることにより、多くの人々から共感を得ることに成功してきたのである。

CAFが国内外の寄付金提供者や障害者アスリートに知られる大きなきっかけになったのが、Jim MacLaren氏とガーナ人の交流を描いたドキュメント映画である。CAFが支援したガーナ人との交流ストーリーを「Emmanuel's gift」として映画化されたことにより、多くの人たちにCAFの活動を伝えることができ、CAFの認知度はこの映画をきっかけに世界まで広まることになったのである。このような、一流障害者のストーリーをCAFは大事にしており、逆境や挑戦を題材にしたストーリーやCAF出身のアスリートと有名人との交流などをビデオにして、スポンサー獲得や寄付金提供者、メディアに紹介することで、効果的に伝えたいメッセージを伝えることができているのである。

他にも、CAFが支援してきた一流障害者アスリートはイベントにも無償で参加している。CAFのイベントに一流障害者アスリートが参加することにより、イベントを通じて多くの障害者アスリートとの交流が生まれている。そして、自然とその交流の中でまた新たなストーリーが生まれ、CAFがビデオに残すことで、多くの人々を動かすストーリーが毎年生まれていくのである。

CAFの創設者であるボブ・バビット氏は、CAFの成功要因となった一流選手のビデオ作成を日本でも2020東京パラリンピックに向けて作るべきだと提言している。たしかに、日本においても、ビデオ映像で幼少期からのストーリーが残っていることにより、国民的スターになったアスリートもいる。そのストーリーに多くの国民が感動し、多くのファンが生まれている。日本においても、2020東京パラリンピックに向けて、一流障害者アスリートのビデオを多く残しておくことにより、多くの人を惹きつけるストーリーになり、障害者普及につながる支援の輪がさらに広がると考えられる。

また、これまでのインタビュー結果を踏まえ、CAFによる資金調達の一歩の成功要因は現在も変わらないCAFの精神・ミッションに加えて、事業の透明性を図っていることが挙げられる。事業の透明性こそがCAFの大きな強みになっており、寄付金提供者からの信頼を大きく集めることができていると考える。寄付金提供者から信頼されるCAFの取り組みとして、CAFの障害者アスリート支援の方法が寄付金の80%を直接個人に送るという明快さと、NPO法人として組織概要や寄付金の使用用途の公開をしっかりしてきたことにある。アメリカにおいては、NPO法人の評価をwebサイト「Charity Navigator」でも確認することができる。

日本では、アメリカとの文化の違いから寄付金が集まりにくいと一般的に言われているが、CAFのように寄付金の使用用途を明確にし、公開することにより、寄付提供者からの信頼を得られることができ、日本においても寄付金を集めることは可能であると考えられる。

第3項 地域住民による支援の重要性

多くのスポンサーを集められた結果、障害者スポーツの普及・育成プログラムによって、新たな子どもたちやスポーツの機会に恵まれない障害者アスリートに資金提供スポーツ機会の提供を可能にしていると考えられる。CAF の設立背景、CAF の役員、資金調達イベントの開催、ボランティア、全てにおいて CAF の一貫した理念と精神に賛同した地域の人々のサポートがあることにより、運営することができており、CAF にとって地域の住民の支援はかけがえのない重要な要素であると考えられる。

CAF の設立背景や役員メンバーからわかるように、CAF の精神に共感した地域の人たちの期待や後押し、交友関係の広がりから CAF は始まり、現在も地域の人たちにとっても支援したくなる組織として成長している。その結果、CAF のイベントやプログラムでは、地域のボランティアから年間 5000 人以上の協力を得ることができている。他にも、スポンサー獲得・社員雇用についても、地域の人たちの紹介の影響が大きくあることから、CAF にとって地域に密着した活動が非常に重要になると考える。

地域密着活動として、地域でのプログラム・大会実施や CAF が支援した障害者アスリートによる講演会がある。特に、地域の人たちとの重要なつながりとして、CAF の施設が挙げられる。CAF の施設は、多くの人たちからの寄付金によってできた施設であり、寄付金提供に対する感謝の気持ちを表すモニュメントを施設内に作ることによって、CAF は地域の人たちとのつながりをさらに強めているのではないだろうか。また、施設にあるジムや広場を地域の子どもたちがいつでも使用できるように、永久会員証を提供しており、地域に密着した地域貢献になっている。

CAF の将来についても、地域住民の支援を重要視していることが示唆されている。CAF は、2018 年以降の取り組みとしてサンフランシスコとニューヨークに活動の幅を広げる活動をしている。各エリアにおける活動内容として CAF は、寄付金提供者や障害者アスリートとの関係作りから始めており、地域住民の支援を最初に増やす活動をしている。CAF が活動を維持・拡大させていくためには、CAF の理念や精神に賛同してくれる地域住民の支援が必要不可欠であり、CAF の発展に欠かせない重要な要素になっている。

このような地域住民に支えられて、CAF は障害者スポーツの普及・育成プログラムを実施することにより、2016 年までに 76 百万ドル以上の資金を個人、及びスポンサーから集め、世界の障害者 13000 人以上の障害者アスリートへ資金提供を実施し、San Diego Triathlon Challenge や Catch A Rising Star によってスポーツの機会を提供することで、障害者スポーツ普及に貢献しているのである。

第5章 結論

1997年創設されたCAFは、理念と精神は変わらず一貫している。CAFでは、一流障害者アスリートや有名人を活用し、スポンサー集めやイベントでの資金調達を行っている。

また、この資金をもとにCAFは障害者アスリートへの資金提供とスポーツ機会の提供を中心にした6つのプログラムを実施することにより、障害者スポーツへの普及・育成を実施している。

謝辞

本研究の執筆にあたり、指導教員である平田竹男教授には多大なるご指導を賜りました。2020東京パラリンピックを目指し、現役アスリートとして、大学院に通うことは私にとって本当に大きな挑戦でしたが、大変温かくサポートしていただきました。研究では、幅広い見識による的確なご指導をいただき、私のみでは思いつかなかった障害者スポーツについての新たな視点を見つけることができました。特に、アメリカ・サンディエゴでの現地調査については、先生の助言がなければ、的確なインタビュー調査を成功させ、本稿を完成させることはできませんでした。

副査の中村好男教授には、学術的な視点についてから多くのご指摘、ご指導をいただきました。児玉有子教授からはインタビュー調査の精査から本稿の完成に至るまで、的確な論文技法を指導していただきました。平田教授、中村教授、児玉教授に心より深く感謝を申し上げます。

そして、平田研究室12期の皆様と刺激的で貴重な1年間の大学院生活を共に過ごせたことは私にとって大きな財産となりました。また、修士2年制の河野遼兵氏、佐々木大氏、吉鹿奈三子氏にもご助力をいただきましたこと感謝しております。

また、インタビュー調査において、快く対応して頂いたCAFのボブ・バビット氏、トラビス・リック氏やCAF関係者のみなさまに丁寧にご対応頂いたことに深く感謝を申し上げます。アルバート・ツキモト氏は現地調査において通訳及び、コーディネートを担当していただき、大変お世話になりました。インタビュー内容の和訳作業については、アサコ・ブルーマー氏にご協力いただいたことに御礼を申し上げます。CAFとの連絡全般については、家族に多大なサポートをいただきましたこと深く感謝しております。本研究を行うにあたり、他にも多くの方々のご協力やお力添えのおかげで本稿を完成することができました。本研究に、関わっていただいた全ての人に御礼を申し上げます。

最後に、この1年間、多くの方々と出会い、本当に多くのことを学ばせていただきました。大学院生活、研究を通して、出会った全ての方々が私のかけがえのない財産になりました。今後、この出会いや経験を最大限生かせるように、さらに私も研鑽を重ねていきたいと思います。改めて、みなさまに感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

引用・参考文献

1. Challenged athlete foundation 公式サイト. www.challengedathletes.org/.

Accessed 11 月 18 日, 2017 年.

2. 藤田紀昭. わが国の現状と国際比較. *総合リハビリテーション*. 2015;43(1):75-77.

3. 佐藤真海. 各国の取り組み事例を踏まえたパラリンピック発展モデルに関する研究.

2011 年. 2011.

4. 山口志郎, 高松祥平, 石澤伸弘, 山口泰雄. カナダにおける障害者スポーツの可能性.

生涯スポーツ学研究. 2015;11(2):21-30.

5. Charity navigator 公式サイト.

<https://www.charitynavigator.org/index.cfm?bay=search.summary&orgid=10662>.

Accessed 11 月 18 日, 2017 年.

6. 平田竹男. *スポーツビジネス 最強の教科書*. 東洋経済新報社; 2017.

巻末付録

Challenged athlete foundation への質問項目一覧

Questionnaire to CAF	
① History of CAF	
1	When was CAF officially founded?
2	How many founders were involved in the foundation of CAF?
3	How did CAF raise funds of \$49,000 in 1994?
4	Were there any promotion plans to raise \$49,000 and to advertise for challenged athlete to participate in the San Diego Triathlon Challenge (SDTC) in 1994?
5	Was CAF able to conduct the first SDTC with donations only? Did CAF collect an entry fee from the athletes?
6	How many staff were involved in the first SDTC in 1994?
7	How many athletes participated in the 1994 SDTC? Please also advise the number of athletes who participated in the SDTC each year up to 2017.
8	Please advise the donation amounts for each year from \$49,000 in 1994 to \$1,370,520 in 2016. Was there a turning point in its history?
9	Please advise the change in the number of CAF board members every year from 1994 to 2017.
10	I read that there are several board members who work within the banking industry. What was the reason for the increase in the number of banking industry board members? What is their role within CAF and how have they contributed to CAF?
11	How are donations collected by CAF? Please advise how CAF's collection of donations has changed each decade. Were there any turning points in its history?
12	Please summarize the first CAF business model. How has the business model changed up to 2016?
13	What was the most difficulty in spreading sport among people with physical disabilities?
14	How did you increase CAF team members who work for CAF's operation?
15	What should be studied and learned in order to obtain support for CAF operations? What are the most important points?
16	Does CAF maintain a relationship with the American Association of Disabled People in Sports and the American Paralympic Committee? If Yes, how did CAF establish such relationship? Please advise how the

	relationship has changed and evolved each decade.
17	Dose CAF maintain good relationship with them now?
18	How has CAF maintained its philosophy during hard times such as the Lehman Brothers Shock, 9/11, etc.?
19	Does CAF collaborate with paralympic athletes? What is their role? How has their role and contribution to CAF changed each decade?
② Success of CAF	
1	How many sponsors does CAF have? If possible, could you please advise how CAF obtained the sponsors and outline the contract/agreement with them?
2	Could you please respond to following questions related to global sponsors and event sponsors while reviewing in each decade?
2-1	How did CAF find and obtain sponsors?
2-2	What is an important factor to obtain sponsors?
2-3	What type of publicity did CAF focus on to obtain sponsors?
2-4	What do you think is the reason(s) why CAF is chosen by sponsors?
2-5	Could you please advise me of number of sponsors in every year up to 2016?
2-6	Have there been any sponsors who have terminated their sponsorship? What was the reason?
2-7	Can you think of any merit(s) or demerit(s) for sponsors in their sponsorship of CAF?
2-8	Does CAF have an idea to increase number of sponsors?
2-9	Could you advise me of any strategic idea to publicize and obtain sponsors?
2-10	Could you please advise me of portion of management fee out of total private and corporate donations?
2-11	Could you please advise me of transition of private and corporate donation respectively in both of amount and number in every year up to 2016?
③ Current Status of CAF	
1	Outline of contracts with board members and employees?
2	CAF Organization chart showing each department and its functions and roles?
3	How to recruit team members?

4	Outline of salary system?
5	How to organize management team at each event?
6	Transition of number of employers and total amount of salaries in every decade?
④ CAF Management of Special Events	
	Could you please advise me of following questions related to following 6 special events?
	> Access for Athletes
	> San Diego Triathlon Challenge
	> Operation Rebound
	> Catch A Rising Star
	> Community Outreach
	> Paratriathlete Training
4-1	City (held)
4-2	Number of management team and volunteer respectively
4-3	Number of challenged athletes participated
4-4	Total amount of donation collected and number of sponsors
4-5	How to distribute to athletes
4-6	Publicity and promotion
4-7	History (starting year, how many times CAF held a year)
4-8	Any turning points
⑤ Management Policy	
1	What kind of human resources CAF need for business expansion?
2	Any collaboration with outside vendors (third parties) in financing, coaching, asset maintenance and etc?
3	How to establish collaboration with outside vendors?
4	Were there any changes or turning points in management policy in its history?
5	How CAF utilizes SNS? Which is the best SNS tool for CAF?
⑥ Coaching	
1	How many coaches does CAF have? Does CAF utilize outside vendor for coaching?
2	How does CAF make annual plan?
3	How does CAF develop new training program? Is there any contract vendors for the training program? Is there any development know-how?

4	Does CAF have specific training program for each sport responding to level of athletes?
5	Is there any effective program to spread specific sports?
6	What do coaches put priority in coaching to athletes?
7	What is the most important factor in coaching?
⑦ Volunteer	
1	How many volunteers does CAF gather for each event?
2	The number of volunteers for the SDTC for every year up to 2016
3	What are the roles of the volunteers?
4	Any education for the volunteers?
5	Were there any changes or turning points in volunteers' roles in its history?
⑧ CAF' s Future	
1	Does CAF have any new idea to spread CAF' s support to challenged athletes?
2	What kind of issues does CAF have nowadays? Any countermeasures?
⑨ CAF' s Grants	
1	Any criteria for selection?
2	Any challenged athletes whom CAF expects for participation?
3	What does CAF expect as a good usage of a CAF grant?
4	How does CAF determine amount of grants distribution?
5	When and why did CAF begin to distribute grants to challenged athletes other than Americans?
6	Does CAF expect that foreign athletes will increase for application?
7	If yes, is there any specific strategic idea to increase foreign athletes?